

独立行政法人国立美術館の平成24年度に係る業務の実績に関する評価

全体評価

＜参考＞ 業務の質の向上:A 業務運営の効率化:A 財務内容の改善:A

①評価結果の総括

- ・第3期中期計画に向けて、事務・事業運営が計画通り実施されていることは、高く評価できる。
- ・美術振興のナショナルセンターとして、充実した企画展・所蔵品展を実現するとともに、多角的な美術情報の発信を実行し、一定の成果を上げている。
- ・業務運営の効率化等の面でも着実な実績を上げており、来館者へのサービス向上のために積極的に取り組んでいると認められる。しかし、我が国の文化的感性の涵養を担うべき本法人が人件費の抑制により人材育成に停滞を招いている事態は、早急な検討が必要である。

②平成24年度の評価結果を踏まえた、事業計画及び業務運営等に関して取るべき方策(改善のポイント)

(1)事業計画に関する事項

- ・各館が行う展覧会事業については、ほぼ期待どおりの優れた成果を上げており、その上で、5館の連携による企画展示など、引き続き積極的な取組が望まれる。「項目別－p11ほか参照」
- ・企画展の入場者数は、減少傾向を示しており、運営方式について新たな取組の検討が必要である。また、観覧者の増加を図るためには、美術館の空間利用やショップ運営など、観覧者のニーズを把握した新たな運営が求められる。「項目別－p5～9、67～68参照」
- ・収蔵作品、寄託作品も順調に増えており、今後はナショナルギャラリーとして、それらが安全かつ機能的に収蔵されるスペースを確保すべきである。「項目別－p75～78参照」

(2)業務運営に関する事項

- ・ナショナルセンターとして、継続的に業務運営を実施していくためには、常勤職員の補充及び人材育成が必須であり、改善に努めるべきである。「項目別－p168～169参照」

(3)その他

- ・国際交流については、ナショナルセンターとして中長期計画を策定し、国際会議への参加や誘致を行うなど、アジアにおける中核的な美術館として活動することが必要である。「項目別－p110～119、127～129参照」

③特記事項

特になし

文部科学省独立行政法人評価委員会
文化分科会 国立美術館部会 名簿

<正委員>

前田 富士男 中部大学人文学部教授

<臨時委員>

市 川 政 憲 茨城県近代美術館館長

金 原 宏 行 豊橋市美術博物館館長

武 田 潔 早稲田大学文学学術院教授

宮 島 博 和 公認会計士

(以上 5 名)

独立行政法人国立美術館の平成24年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※					項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※				
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する	A	A				(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	A			
(中項目名)美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	A	A				(小項目名)業務の効率化の状況	A	A			
(小項目名)展覧会への取組	A	A				(小項目名)給与水準の適正化等	A	A			
(小項目名)国立新美術館等の取組	A	A				(小項目名)内部統制	A	A			
(小項目名)情報の発信	A	B				(小項目名)情報安全	A	A			
(小項目名)教育普及活動の実施状況	A	A				(大項目名)財務、人事、施設整備に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	A			
(小項目名)調査研究の実施状況	A	A				(小項目名)財務の状況	A	A			
(小項目名)観覧環境の提供	A	A				(小項目名)人事の状況	A	B			
(中項目名)我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示しうるナショナルコレクションの形成・	A	A									
(小項目名)収蔵品の収集	A	A									
(小項目名)収蔵品の保管・管理	A	B									
(小項目名)収蔵品の修理	A	A									
(小項目名)収集・保管のための調査研究	A	A									
(中項目名)我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	A	A									
(小項目名)ナショナルセンターとしての国内外の美術館等との連携・協力	A	A									
(小項目名)ナショナルセンターとしての人材育成	B	B									
(小項目名)フィルムセンターの取組状況	A	A									

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

※「－」は当該年度では該当がないことを、「／」は終了した事業を表す。

備考(法人の業務・マネジメントに係る意見募集結果の評価への反映に対する説明等)
本法人の業務・マネジメントに係る意見募集を実施した結果、意見は寄せられなかった。(意見が無かった場合)

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
収入						支出					
運営費交付金	5,790	5,773	5,859	5,973	7,701	運営事業費	16,133	14,787	15,237	14,010	13,700
展示事業収入	1,311	1,294	1,432	1,150	1,172	人件費	1,112	1,189	1,038	1,087	1,000
受託収入	33	4	0	0	0	管理部門	331	346	285	293	283
寄附金収入	35	17	13	28	16	事業部門	781	843	753	794	717
消費税等還付税額	0	0	0	0	0	業務経費	15,021	12,549	14,199	12,923	12,700
施設整備費補助金	9,250	7,205	7,836	7,026	5,318	一般管理費	1,607	1,467	1,315	1,183	1,161
文化芸術情報電子化推進費補助金	0	1,049	0	0	0	展覧事業費	2,964	2,735	3,642	3,401	5,007
						調査研究事業費	201	198	172	191	208
						教育普及事業費	999	999	1,178	1,101	1,006
						施設整備費補助金	9,250	7,150	7,892	7,047	5,318
						文化芸術情報電子化推進費補助金	0	1,049	0	0	0
計	16,419	15,342	15,140	14,177	14,207	計	16,133	14,787	15,237	14,010	13,700

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

(単位:百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
費用						収益					
経常費用	5,930	5,704	5,795	5,444	5,501	運営費交付金収益	4,485	4,297	4,554	4,142	4,134
収集保管事業費	323	341	411	386	364	資産見返運営費交付金戻入	145	156	148	157	145
展覧事業費	1,861	1,714	1,815	1,698	1,947	資産見返寄付金戻入	1	1	3	3	3
調査研究事業費	296	322	302	318	324	資産見返物品受贈額戻入	15	15	14	12	12
教育普及事業費	1,154	1,156	1,288	1,229	1,127	入場料収入	774	786	932	693	677
新館設置対応費	0	0	0	0	0	その他事業収入	533	500	491	451	483
受託事業費	33	4	0	0	0	受託収入	33	4	0	0	0
一般管理費	2,083	1,992	1,810	1,638	1,578	補助金等収益	0	10	0	0	0
減価償却費	164	172	165	174	161	寄附金収益	10	41	8	15	29
臨時損失	16	3	4	1	0	施設費収益	127	66	175	42	14
						雑益	6	7	9	6	12
						臨時利益	8	18	0	0	1
計	5,930	5,704	5,795	5,444	5,501	計	6,137	5,901	6,334	5,521	5,510
						純利益	207	197	539	77	9
						目的積立金取崩額	0	6	0	12	2
						総利益	207	203	539	89	11

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

(単位:百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	6,972	6,681	7,940	7,103	8,370	業務活動による収入	7,111	7,340	8,186	7,158	8,938
投資活動による支出	8,486	7,858	6,610	8,186	5,641	運営費交付金収入	5,790	5,773	5,859	5,973	7,701
財務活動による支出	3	1	0	0	0	入場料収入	774	785	931	694	674
国庫納付金の支払額	0	0	0	1,606	0	その他事業収入	479	575	485	463	546
資金に係る換算差額	0	0	4	0	0	寄附金収入	35	18	13	28	17
翌年度への繰越金	1,777	2,435	2,755	1,300	1,617	受託収入	33	33	4	0	0
						補助金等収入	0	156	894	0	0
						投資活動による収入	8,362	7,858	6,688	8,282	5,390
						前年度よりの繰越金	1,765	1,777	2,435	2,755	1,300
計	17,238	16,975	17,309	18,195	15,628	計		16,975	17,309	18,195	15,628

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

【参考資料2】貸借対照表の経年比較(過去5年分を記載)

(単位:百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
資産						負債					
流動資産	2,840	3,692	4,261	1,549	1,813	流動負債	2,061	2,681	2,638	1,453	1,706
固定資産	135,218	142,359	149,765	156,316	163,783	固定負債	1,144	1,085	1,102	968	880
						負債合計	3,205	3,766	3,740	2,421	2,586
						純資産					
						資本金	81,019	81,019	81,019	81,019	81,019
						資本剰余金	52,570	59,805	67,268	73,954	81,511
						利益剰余金	1,264	1,461	1,999	471	480
						(うち当期末処分利益)	(207)	(203)	(539)	(89)	(11)
						資本合計	134,853	142,285	150,286	155,444	163,010
資産合計	138,058	146,051	154,026	157,865	165,596	負債資本合計	138,058	146,051	154,026	157,865	165,596

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

【参考資料3】利益(又は損失)の処分についての経年比較(過去5年分を記載) (単位: 百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
I 当期末処分利益	207	203	539	89	11
当期総利益	207	203	539	89	11
II 利益処分額	207	203	539	89	11
積立金	207	203	539	89	11
独立行政法人通則法第44条第3項により主務大臣の承認を受けた額	0	0	0	0	0
美術作品購入・修理積立金	0	0	0	0	0
設備積立金	0	0	0	0	0

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

【参考資料4】人員の増減の経年比較(過去5年分を記載) (単位: 人)

職種※	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
定年制研究系職員	61	61	61	61	61
定年制事務系職員	70	70	70	70	70

※職種は法人の特性によって適宜変更すること

備考(指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等)

独立行政法人国立美術館の平成24年度に係る業務の実績に関する評価

【(大項目)1】	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	【評定】 A			
		H23	H25	H26	H27
		A			
【(中項目)1-1】	1. 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	【評定】 A			
		H23	H25	H26	H27
		A			

【(小項目)1-1-1】	展覧会への取組	【評定】			
【法人の達成すべき目標(計画)の概要】		A			
(1)多様な鑑賞機会の提供		H23	H25	H26	H27
		A			
		実績報告書等 参照箇所			
		＜実績報告書＞			
		P3～9			
		1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開			
		(1)多彩な鑑賞機会の提供			
		①所蔵作品展			
		②企画展			
		③東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等			
		④巡回展			

①-1 中期目標で示された学術的意義、国民の関心、国際文化交流の推進等に配慮しつつ、国立美術館ならではの多様な美術作品の鑑賞機会をより多くの国民に提供するため、各館において魅力ある質の高い所蔵作品展・企画展及び企画上映を実施する。
①-2 所蔵作品展は、各館におけるコレクションの充実を図りつつ、その特色を十分に発揮したものとする。また、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与することを目指すとともに、所蔵作品の鑑賞・理解に資するため作品の展示替えに加え、小企画展・テーマ展などを開催する。
①-3 企画展は、積年の研究成果に基づき、時宜を得たものを企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、利用者のニーズに対応しつつ、次の観点に留意して実施する。また、入館者数を念頭においた展覧会のみならず、新しい視点・観点を提示する展覧会をも提供する。
(イ) 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。
(ロ) 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。
(ハ) メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。
(ニ) 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組む。
なお、企画展の開催回数は概ね以下のとおりとする。

(東京国立近代美術館) 本館 年4～6回程度 工芸館 年2～3回程度 フィルムセンター 年15回程度(展覧会を含む) (京都国立近代美術館) 年4～6回程度 (国立西洋美術館) 年3回程度 (国立国際美術館) 年5～6回程度 (国立新美術館) 年5～6回程度(公募展を除く。) ①-4 展覧会を開催するにあたっては、実施目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施し、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう取り組む。 ①-5 5館共同企画展「陰影礼讃―国立美術館コレクションによる―」(平成 22 年 9 月開催)の成果を踏まえ、今後の各館連携を引き続き推進する。 ② 公私立美術館等のニーズ等を十分踏まえ、国立美術館が所蔵する美術作品及びそれに関する調査研究の成果を活用して、地方巡回展を積極的に開催する。 また、あわせて当該地方巡回展に関連する講演会又はシンポジウムを開催することにより、ナショナルセンターとして地域における鑑賞機会の充実と美術の普及に資する。 このほか、公立文化施設等と連携協力して、所蔵映画フィルムによる優秀映画鑑賞会を実施する。 ③ 入館者数については、展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の入館者等の状況等を踏まえて、国立美術館としてふさわしい入館者数の目標を設定し、その達成に取り組む。 ④ 映画フィルム・資料の所蔵作品を活用した上映、展示等の活動に積極的に取り組む。	P21～25 (5)調査研究成果の美術館活動への反映 ①調査研究一覧 <平成24年度計画> P1～12 I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開 (1)多様な鑑賞機会の提供
---	--

【インプット指標】						
(中期目標期間)	H19	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(百万円)	1,900	1,861	1,714	1,815	1,698	1,947
従事人員数(人)	61	59	59	57	57	54

1)決算額は損益計算書 展覧事業費を計上している。

2)従事人員数は、すべての研究職員数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価
○ 各館において、魅力ある質の高い所蔵作品展・企画展及び企画上映を実施したか。 (所蔵作品展) ○ 各館におけるコレクションの充実を図りつつ、その特色を十分に発揮したものとしたか。また、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与することを目指すとともに、所蔵作品の鑑賞・理解に資するため作品の展示替えに加え、小企画展・テーマ展などを開催したか。	(所蔵作品展) 東京国立近代美術館 (本館) 平成 24 年度は、10 年ぶりに所蔵品ギャラリーをリニューアルし、特集展示の拡充、解説の拡充、導線の整理、多言語化対応及び休憩スペースの拡充を行った。「美術にぶるっ！」展第 1 部という変則的な運用を行った 10 月から 1 月までの会期を終え、平成 25 年 1 月から、所蔵作品展「MOMAT コレクション」を開始した。 「MOMAT コレクション」では、12 室をすべて特集展示の形式とし、当館コレクションの特徴を活かしつつ、新収蔵品の活用や研究成果のいち早い公開を積極的に行うとともに、日本画、洋画、版画、水彩・素描、写真など美術の各分野にわたる 12,000 点(うち重要文化財 13 点、寄託作品 1 点を含む)を越える所蔵作品から、会期毎に約 200 点を選び、20 世紀初頭から今日に至る約 100 年間の日本の近代美術の流れを海外作品も交えて展示した。 (工芸館) 「寿ぎの『うつわ』—工芸館の漆工コレクションから—」では、海外では日本を代表する工芸の一つとして知られている漆工について、一部の借用作品を交えて、工芸館として初めて特集した。また、「花咲く工芸」では、所蔵作品の中から花を主題にした 159 点を選び、陶磁や染織、漆工、金工、木工、ガラス、人形など、様々な素材による作品を取り上げ、明治期から現代にかけての近代工芸を代表する名品を紹介した。そのほか、毎年度恒例となっている「こども工芸館／おとな工芸館 植物図鑑」を開催した。 京都国立近代美術館 「コレクション・ギャラリー」では、6 回の展示替えを行うとともに、「すべての僕が沸騰する 村山知義の宇宙」と連動し、「前衛」運動の旗手・村山知義が活動した 1920 年及び 30 年代に展開した動向の一端を紹介した「村山知義と同時代の日本の「前衛」」、「高橋由一展」と連動し、京都で高橋由一にも匹敵する洋画活動を展開した田村宗立の画業を、最初期から晩年に至るまで紹介した「京の由一 田村宗立 — 明治洋画の先覚者」、また、「山口華楊展」に合わせ山口華楊及び関連作家の作品を展示し、画家としてだけでなく、指導者として京都画壇の発展に寄与したことをも紹介する「山口華楊展にちなんで」を開催するなど、平成 24 年度も引き続き、企画展と関連する、コレクションを活用した小企画を開催した。 また、「京の由一 田村宗立 — 明治洋画の先覚者」に関して、ポスターの裏面に、展覧会意図や作者・作品などの解説を出品作品の色刷図版を掲載しながら読み物風に印刷し、観覧者に無料で配	国立美術館全体として、計画どおり所蔵作品展、企画展、企画上映を開催し、質の高い展覧会が実施されたが、企画上映については、目標入館者数に及ばなかった。映画史的に価値が高いものの、これまで紹介されることのなかった知名度の低い作品も多く含まれていたため、集客力が必ずしも大きくなかったと考えられるが、ナショナルセンターとしての活動としては、評価できる。 近年の各館のコレクションの充実をもとに、現代的関心に対応する展観の実現など魅力ある展覧会が実施されたことは評価できる。 また、展示替えや小企画展等の実施も拡充されており、全体として、所蔵作品展への取組の努力が見られる。 なお、東京国立近代美術館工芸館のホームページ上のニュースの充実、各館におけるポスターの改善など進展が認められた点について評価できる。 所蔵作品展については、目標入館者数を達成しており、今後とも各館の特色を生かした、内容ゆたかな展覧会が期待される。

布して、展覧会の情報提供を行う新たな形式の広報物を作成した。

国立西洋美術館

所蔵作品から約 200 点の絵画・彫刻を選んでおおむね時代順に配列し、中世末期から 20 世紀までの西洋美術の流れを辿ることのできる展示を行った。この間、6 回の展示替えを行ったが、それによる休室は最小限にとどめ、絵画・彫刻コレクションの主要作品を常時公開するよう努めた。

版画素描展示室では、「クラインマイスター：16 世紀前半ドイツにおける小画面の版画家たち」をはじめ計 4 本の小企画展を開催し、素描・版画コレクションの多様な側面を紹介した。

広報の新たな取組として、インターネット上で美術作品の高解像度画像や館内の 360 度画像（ストリートビュー）を提供する Google 社の web サービス「Google アートプロジェクト」に参加し、同サイトを通じて 164 件の所蔵品データの公開を開始した。また、企画展やイベントの告知を行い、常設展への関心を高めることを目指して、公式 facebook ページの公開を開始した。

国立国際美術館

平成 24 年度の所蔵作品展は、共催展及び企画展の開催に合わせて 3 回行った。同時開催の企画展に合わせ展示内容を見直し、企画展に関連する作家及び作品や、近年収蔵された作品による展示構成としている。「宮永愛子：なかそらー空中空ー」と同時期に開催したコレクション展においては、「70 年代日本の美術ー「もの派」を中心にしてー」というタイトルで、これまで重量があるため、展示する機会のなかった作品を一堂に紹介した。

【数値目標の達成状況】

・所蔵作品展入館者数

実績 777,106 人

目標 697,000 人

目標達成率 111.5%

【所蔵作品展 過去の実績】

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
開催日数	1,249	1,116	1,264	1,082	1,166	1,200	1,084
展示替回数	24	20	25	24	22	19	21
入館者数	1,032,918	815,042	1,201,234	844,672	1,051,827	864,514	777,106
目標数	740,000	707,000	884,000	709,000	823,000	689,000	697,000

年3回程度 ・国立国際美術館 年5～6回程度 ・国立新美術館 年5～6回程度(公募展を除く。)	美術館 工芸館	④現代工芸への視点 現代の座標—工芸をめぐる11の思考—	68	9,030	11,000	口		今後のマスコミとの共催展の開催方法及び広報活動について等一層の検討を求めたい。
		⑤東京オリンピック 1964 デザインプロジェクト	42 (93)	15,744 (継続)	18,000 (41,000)	二		
		計	231	63,403	57,000			
	京都国立近代美術館	①すべての僕が沸騰する—村山知義の宇宙—	33	10,086	10,000	ハ	読売新聞社, 美術館連絡協議会	
		②井田照一の版画	30	7,793	8,000	二	京都新聞社	
		③KATAGAMI Style—もうひとつのジャポニスム	40	36,337	54,000	イ, 口 二	日本経済新聞社, 京都新聞社	
		④近代洋画の開拓者 高橋由一	39	45,954	55,000	ホ	読売新聞社, NHK京都放送局, NHKブラネット近畿	
		⑤日本の映画ポスター芸術【※2】	(48)	(35,624)	(18,000)	二, 口	東京国立近代美術館フィルムセンター	
		⑥山口華楊展	39	43,382	42,000	ホ	毎日新聞社, 京都新聞社	
		⑦開館 50 周年記念特別展 交差する表現 工芸／デザイン／総合芸術	14 (46)	2,841 (継続)	10,000 (33,000)	口	京都新聞社	
		計	195	146,393	179,000			
	国立西洋美術館	①ユベール・ロベール—時間の庭	44 (67)	64,237 (91,897)	23,000 (34,000)	イ, 二	東京新聞	
		②ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の 400 年	85	399,312	296,000	イ, 二	TBS, 読売新聞社	
		③手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描	70	46,876	31,000	口	朝日新聞社	
		④ラファエロ	26 (81)	139,611 (継続)	97,000 (317,000)	イ	フィレンツェ文化財・美術館特別監督局, 読売新聞社, 日本テレビ放送網	
		計	225	650,036	447,000			
	国立国	①草間彌生 永遠の永遠の永遠	7 (80)	39,831 (218,945)	4,000 (44,000)	口	朝日新聞社	
		②国立国際美術館 35 周年記念展 コレクションの誘惑	57	42,826	41,000	ホ	朝日新聞社	
		③＜私＞の解体へ：柏原えつとむの場合	73	21,527	11,000	二		

	際美術館	【※3】					
		④リアル・ジャパネスク：世界の中の日本現代美術 【※3】	71	20,602	17,000	ホ	
		⑤宮永愛子：なかそらー空中空ー	63	59,452	52,000	ハ	
		⑥エル・グレコ展	61	191,143	127,000	イ	NHK大阪放送局，NHKプラネット近畿，朝日新聞社
		⑦夢か、現か、幻か	56	12,473	15,000	ロ、ハ	
		計	388	387,854	267,000		
	国立新美術館	①野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿	2 (68)	813 (21,151)	1,000 (18,000)	ニ	
		②セザンヌーバリとプロヴァンス	63 (67)	290,494 (302,239)	317,000 (331,000)	イ、ロ	日本経済新聞社
		③大エルミタージュ美術館展 世紀の顔・西欧絵画の400年	73	392,949	407,000	イ	日本テレビ放送網，読売新聞社，エルミタージュ美術館
		④「具体」ーニッポンの前衛 18年の軌跡ー	60	26,700	27,000	ロ	
		⑤与えられた形象ー辰野登恵子／柴田敏雄	66	15,725	24,000	ロ	読売新聞社
		⑥リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝	71	253,569	237,000	イ	朝日新聞社，東映株式会社，TBS
		⑦未来を担う美術家たち DOMANI・明日展 2013＜文化庁芸術家在外研修の成果＞	20	14,307	10,000	ハ	文化庁，読売新聞社，アート・ベンチャー・オフィス・ショウ
		⑧アーティスト・ファイル 2013ー現代の作家たち	59 (60)	30,129 (継続)	31,000 (32,000)	ハ、ホ	
		⑨平成24年度[第16回]文化庁メディア芸術祭	11	51,819	45,000	ハ	文化庁メディア芸術祭実行委員会（文化庁，国立新美術館）
		⑩カリフォルニア・デザイン 1930-1965ーモダン・リビングの起源ー	11 (67)	15,670 (継続)	6,000 (40,000)	イ、ロ、ハ	ロザンゼルス・カウンティ美術館
		計	436	1,092,175	1,105,000		
	合計		1,699	2,559,604	2,295,000		
備考：【※1】借用作品経由地となったシドニーの美術館との間でのスケジュール及び便数を調整した結果，開催日数が当初予定の31日間から変更となった。							
【※2】コレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため，開催日数，入館者数及び目標数はそれぞれの合計に含めない。							

【※3】台風接近に伴う暴風警報発令により、1日間臨時休館した。

【数値目標の達成状況】

・企画展入館者数

実績 2,559,604 人

目標 2,295,000 人

目標達成率 111.5%

【企画展 過去の実績】

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
開催日数	1,526	1,781	1,717	1,778	1,623	1,849	1,699
目標回数	25～31	25～31	25～31	25～31	25～31	23～30	23～30
開催回数	35	43	40	36	41	36	38
入館者数	2,181,090	3,354,198	3,076,557	3,582,458	3,450,921	2,566,205	2,559,604
目標数	1,469,000	2,302,000	2,342,400	2,519,000	2,196,400	1,926,600	2,295,000

東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等

【上映会】

タイトル	会場	上映回数	日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
①よみがえる日本映画 vol.4[大映篇] ー映画保存のための特別事業費による	大ホール	60	20	9,105	8,500	二	
②生誕百年 映画監督 今井正	大ホール	124	54	18,115	19,500	二	
③EU フィルムデーズ 2012	大ホール	42	20	7,862	8,500	ホ	駐日欧州連合代表部、EU加盟国大使館・文化機関
④ロードショーとスクリーンブームを呼んだ外国映画	大ホール	51	17	5,884	6,500	ホ	一般社団法人外国映画輸入配給協会

⑤シネマの冒険 闇と音楽 2012 ロシア・ソビエト無声 映画選集	大ホール	12	6	1,836	1,500	ホ	
⑥第 34 回 PFF ぴあフィ ルムフェスティバル	大ホール 、小ホール	35	10	4,576	4,500	ロ、ニ	PFF パートナ ーズ(ぴあ、ホ リプロ、日活) 、公益財団法 人ユニジャパ ン
⑦生誕百年 木下恵介劇 場	大ホール	50	25	5,089	8,500	ニ	
⑧日活映画の 100 年 日 本映画の 100 年	大ホール	138	69	17,728	19,500	ニ	
⑨よみがえる日本映画 vol.5[日活篇]—映画保存 のための特別事業費によ る	大ホール	72	36	10,184	10,000	ニ	
⑩自選シリーズ 現代日 本の映画監督 1 崔 洋一	大ホール	24	12	3,578	3,500	ロ、ニ	
⑪映画の教室 2012 [京 橋映画小劇場 No.23]	小ホール	18	9	1,800	2,000	ホ	
⑫アンコール特集 2011 年度上映作品より [京橋 映画小劇場 No.24]	小ホール	18	9	1,947	1,500	ホ	
⑬東京国立近代美術館 60 周年記念 美術館と映画:フィルムセ ンター以前の上映事業 [京橋映画小劇場 No.25]	小ホール	42	21	2,201	3,500	ホ	
計		686	308	89,905	97,500		

【数値目標の達成状況】

・上映会入館者数(東京国立近代美術館フィルムセンター)

実績 89,905 人

目標 97,500 人

目標達成率 92.2%

※目標未達成の原因・理由

上映会の入館者数が目標を下回った主な理由として、「生誕百年 木下恵介劇場」や「日活映画の100年 日本映画の100年」など日本を代表する巨匠及び映画会社の特集において、これまで紹介されることのなかった巨匠の知られざる作品（テレビドラマやアニメーション）や、採算性に乏しいが、映画史上貴重な戦前作品を中心に上映を行ったが、結果として知名度の高い作品ほどの集客に結びつかなかったことが挙げられる。

【展覧会】

展覧会名	日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
①ロードショーとスクリーン 外国映画ブームの時代	89	5,104	4,000	口, 二	一般社団法人外国映画輸入配給協会
②日活映画の100年 日本映画の100年	102	5,738	4,500	口	
③西部劇の世界 ポスターでみる映画史 Part1	72	4,770	3,000	二	
計	263	15,612	11,500		

【数値目標の達成状況】

・展覧会入館者数（東京国立近代美術館フィルムセンター）

実績 15,612 人

目標 11,500 人

目標達成率 135.8%

【上映会 過去の実績】（東京国立近代美術館フィルムセンター）

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
開催日数	339	350	365	368	328	323	308
目標回数	5～6	5～6	5～6	5～6	5～6	15 回程度	15 回程度
開催回数	14	15	16	18	15	14	13
入館者数	124,775	127,542	118,111	113,677	109,098	105,163	89,905
目標数	98,500	101,500	111,000	121,500	105,500	99,000	97,500

○ 展覧会を開催するにあたっては、実施目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施し、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう取り組んだか。	【展覧会 過去の実績】(東京国立近代美術館フィルムセンター)							
		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
	開催日数	291	270	290	276	246	278	263
	開催回数	2	3	3	4	4	4	3
	入館者数	9,294	14,714	13,906	15,518	13,552	17,301	15,612
	目標数	12,000	11,000	11,000	11,500	11,000	13,500	11,500
	所蔵作品展(常設展)、企画展、自主企画展等により、それぞれ実施目的、期待する成果、学術的意義は異なるが、各館の研究員の研究結果の反映としての位置づけ(実績報告書 P21～25に各館における調査研究成果の美術館活動(展覧会の開催)への反映を参照)という点では、共通している。実施目的、期待する成果については、年度計画において明確にされており、それに基づいて実施した。							
	企画展等を開催する場合、専門家や作品貸出館の担当キュレーター等から協力を得た。主な例として、東京国立近代美術館フィルムセンターの上映会「EU フィルムデーズ 2012」では、駐日欧州連合代表部及び EU 加盟国各大使館・文化機関と協議し、近年の EU 加盟各国の映画動向や作品の評価を踏まえながら作品選定を行った。国立西洋美術館の「ラファエロ」展では、フィレンツェ文化財・美術館監督局との共同研究及び共同主催により、展覧会及び講演会を開催した。国立新美術館の「セザンヌ―パリとプロヴァンス」展は、企画と運営において協力を得たパリ市立プティ・パレ美術館及び複数の重要な作品貸出館であるオルセー美術館との緊密な連携の下に実現した。							
	また、展覧会毎に、入館者に対するアンケート調査を実施し、その意見の中から改善可能なものについては、以降の展覧会における観覧環境の改善等に反映するように取り組んだ。展覧会情報については、インターネットから情報を得ているというアンケートの回答を踏まえ、特設サイトを設置することやソーシャルネットワークサービス(SNS)を活用することなどにより、幅広い情報発信に取り組んだ。							
○ 5館共同企画展「陰影礼讃―国立美術館コレクションによる―」(平成 22 年 9 月開催)の成果を踏まえ、今後の各館連携を引き続き推進したか。	5館の横断的・総合的事業プロジェクトとして、平成 22 年度に初めての合同企画展「陰影礼讃―国立美術館のコレクションによる―」を開催し好評を得た。平成 24 年度は、「記憶と想起―コレクションとリコレクション(仮称)―」を企画案として採択し、担当者を決定した。平成 27 年度の開催に向けて、平成 25 年度においても準備を進める予定である。							
	企画案「記憶と想起―コレクションとリコレクション(仮称)―」と担当者が決定し、平成27年度の開催に向けて準備が進められおり、今後の活動が期待される。							

(地方巡回展)

○ 公私立美術館等のニーズ等を十分踏まえ、国立美術館が所蔵する美術作品及びそれに関する調査研究の成果を活用して、地方巡回展を積極的に開催したか。また、あわせて当該地方巡回展に関連する講演会又はシンポジウムを開催することにより、ナショナルセンターとして地域における鑑賞機会の充実と美術の普及に寄与したか。

このほか、公立文化施設等と連携協力して、所蔵映画フィルムによる優秀映画鑑賞会を実施したか。

(地方巡回展)

国立美術館コレクションの調査研究成果を反映し、公私立美術館のニーズ等を十分に踏まえ、当該コレクションの地方における鑑賞機会の充実と美術の普及を図るため、これまで道府県の教育委員会等、全国の美術館と連携して「国立美術館巡回展」を実施しているが、同展を開催したことのない美術館も含め、より一層、多くの美術館に応募してもらえるよう、各年度の担当館(出品概要)を募集要項に提示するなど、公募方法を見直した。

【巡回展】

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
国立西洋美術館	平成 24 年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術	井原市立田中美術館	45	9,808
		島根県立石見美術館	47	11,459
東京国立近代美術館（工芸館）	東京国立近代美術館コレクション 茶事にまつわる うつわ ―陶を中心に―	益子陶芸美術館	54	4,103
	時計塔 80 年記念 東京国立近代美術館工芸館の名品でみる アール・ヌーヴォーとアール・デコ展―その時代の光―	和光ホール（和光本館 6 階）	11	3,583
計			157	28,953

【巡回展に関連する講演会又はシンポジウム】

セミナー・シンポジウム名	工芸館巡回展ギャラリートーク	開催日	平成 24 年 8 月 5 日
場所	益子陶芸美術館展示室	聴講者数	56 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課長)		
内容	工芸館巡回展に伴うギャラリートーク。当館所蔵作品の中から選び抜いて構成した「茶事にまつわる『うつわ』」展について、企画意図や出品作品を紹介した。		
セミナー・シンポジウム名	平成 24 年度国立美術館巡回展「国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」ギャラリートーク	開催日	平成 24 年 10 月 5 日
場所	井原市立田中美術館	聴講者数	40 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	村上博哉(国立西洋美術館学芸課長)		
内容	国立美術館巡回展の岡山展に伴うギャラリートーク。所蔵作品により 19 世紀から 20 世紀中葉にかけてのヨーロッパ近代美術の流れを紹介した「国立美術館巡回		

地方巡回展、巡回上映については、入館者数が増加しており、評価できる。

地方巡回展の開催意義は大きいことから、今後も公私立美術館とのより一層の連携・協力による事業の充実が期待される。

	展 国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」展について、企画意図や出品作品を紹介した。			
セミナー・シンポジウム名	平成 24 年度国立美術館巡回展「国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」講演会	開催日	平成 24 年 11 月 10 日	
場所	井原市立田中美術館	聴講者数	47 人	
講師・パネリスト等の氏名(職名)	陳岡めぐみ(国立西洋美術館学芸課主任研究員)			
内容	国立美術館巡回展の岡山展に伴う講演会。所蔵作品により 19 世紀から 20 世紀中葉にかけてのヨーロッパ近代美術の流れを紹介した「国立美術館巡回展 国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」展について、企画意図や出品作品を紹介した。			
セミナー・シンポジウム名	平成 24 年度国立美術館巡回展「国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」ギャラリートーク	開催日	平成 24 年 12 月 22 日	
場所	島根県立石見美術館	聴講者数	30 人	
講師・パネリスト等の氏名(職名)	新藤淳(国立西洋美術館学芸課研究員)			
内容	国立美術館巡回展の島根展に伴うギャラリートーク。所蔵作品により 19 世紀から 20 世紀中葉にかけてのヨーロッパ近代美術の流れを紹介した「国立美術館巡回展 国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」展について、企画意図や出品作品を紹介した。			
セミナー・シンポジウム名	平成 24 年度国立美術館巡回展「国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」講演会	開催日	平成 25 年 1 月 13 日	
場所	島根県立石見美術館	聴講者数	56 人	
講師・パネリスト等の氏名(職名)	村上博哉(国立西洋美術館学芸課長)			
内容	国立美術館巡回展の島根展に伴う講演会。松方コレクションを中心とした近代美術コレクションの形成の歴史や、「国立美術館巡回展 国立西洋美術館所蔵 ヨーロッパの近代美術」展の企画意図及び出品作品を紹介した。			

【巡回上映】

企画館	タイトル	会場数	開催日数	入館者数
東京国立近代美術館(フィルムセンター)	①平成 24 年度優秀映画鑑賞推進事業	189	357	79,354
	②日本が声を上げる！ 陽が昇る地から来た最初のトーキー映画	1	7	915
	③「喜劇映画の異端児―渋谷実監督特集」巡回事業	2	13	1,093
	④第 5 回中之島映像劇場 浪花の映像【キネマ】の物語	1	2	357

	—東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品から—			
	⑤ NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@home 2012	1	10	575
	⑥日本の映画ポスター芸術	1	48	35,624
計		195	437	117,918

【巡回展 過去の実績】

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
事業数	4	7	2	3	4	2	3
会場数	8	7	4	4	5	3	4
開催日数	332	250	168	127	200	141	157
入館者数	109,643	73,792	29,160	26,819	30,667	9,077	28,953

【巡回上映 過去の実績】(東京国立近代美術館フィルムセンター)

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
事業数	1	1	4	6	5	8	6
会場数	179	189	205	205	201	199	195
開催日数	418	352	399	450	473	428	437
入館者数	94,684	93,525	122,059	105,082	100,001	96,621	117,918

(入館者)

○ 入館者数については、展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の入館者等の状況等を踏まえて、国立美術館としてふさわしい入館者数の目標を設定し、その達成に取り組んだか。

(入館者)

各展覧会の目標入館者数については、年度計画において、近年の同種の展覧会の実績や、共催者の広報活動、作家の特性、作品の内容等にかんがみて算出した。

展覧会開催中は、定期的に入館者数を調査、確認し、一日平均入館者数が、目標値に達していない場合は、大学等へのチラシの追加配布やメールマガジンの配信、特設サイトのコンテンツの充実、また、共催者がある場合は、共催者の協力により新聞広告などを追加で行うなど、さらなる広報活動を検討し、工夫した。

入館者数は、適切な水準の設定であり、またその達成に取り組んだことは評価できる。

(フィルムセンター) ○ 映画フィルム・資料の所蔵作品を活用した上映、展示等の活動に積極的に取り組んだか。	(フィルムセンター) フィルムセンターでの上映会のほか、巡回上映等において、今後もより映画作品が活用されるように取り組みたい。 継続して取り組んでいる「優秀映画鑑賞推進事業」では、189 の会場で、普段目にすることができない貴重な作品の上映会を 357 日間開催し、入館者数は約 8 万人となった。京都国立近代美術館での「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@home」及び国立国際美術館での「中之島映像劇場」は、関西におけるフィルムセンター所蔵作品の定期的な上映拠点ともなっている。 また、継続して収集している監督作品や、アニメーション映画、上映企画に合わせて購入した作品、寄贈作品等を積極的に上映した。パンフレット、ポスターなどの貴重な映画関連資料も上映会との連動を考慮して積極的に展示した。 近年の映画フィルムのデジタル化や 35mm 映写機が将来的にますます使用できなくなる状況において、我が国の美術館のナショナルセンターとして、フィルムセンター所蔵の映画フィルム上映及び展覧会の開催に積極的に取り組んだ。	継続して収集している監督作品や、アニメーション映画、上映企画に合わせて購入した作品、寄贈作品等を積極的に上映し、パンフレット、ポスターなどの貴重な映画関連資料も上映会との連動を考慮して積極的に展示したことは評価できる。 上映会入館者数が目標を下回ったことに関しては、映画上映という鑑賞形態のために展覧会と比べて入館者数の規模が限られ、マスコミ等の協賛を得にくい広報上の課題とされてきた事情も一因として考えられる。 今後は SNS の積極的な活用など、コストを抑えつつ有効な広報活動を展開する方途をさらに検討する必要がある。
---	--	--

【(小項目)1-1-2】 国立新美術館等の取組						【評定】			
【法人の達成すべき目標(計画)の概要】 (2)美術創造活動の活性化の推進 国立新美術館は、全国的な活動を行っている美術団体等に展覧会会場の提供を行うとともに、新しい美術の動向を紹介することなどを通じて、美術に関する新たな創造活動の展開や芸術家の育成等を支援し、我が国の美術創造活動の活性化に資する。 また、メディアアート、アニメ、建築など世界から注目される新しい芸術表現の国内外に向けた拠点的な役割を果たすことを目指し、その取組みを積極的に進める。						A			
						H23	H25	H26	H27
						A			
						実績報告書等 参照箇所			
						＜実績報告書＞ P9～12 (2)美術創造活動の活性化の推進 ① 公募団体等への展覧会会場の提供(国立新美術館) ②新しい芸術表現への取組み			
【インプット指標】									
(中期目標期間)		H19	H20	H21	H22	H23	H24		
決算額(百万円)		2,366	2,157	2,050	2,092	1,934	1,896		
従事人員数(人)		9	8	8	8	8	7		
1)決算額は、セグメント情報 国立新美術館経常費用を計上している。 2)従事人員数は、国立新美術館のすべての研究職員数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。									
評価基準			実績					分析・評価	
○ 全国的な活動を行っている美術団体等に展覧会会場の提供を行うとともに、新しい美術の動向を紹介することなどを通じて、美術に関する新たな創造活動の展開や芸術家の育成等を支援し、我が国の美術創造活動の活性化に寄与したか。 また、メディアアート、アニメ、建築など世界から注目される新しい芸術表現の国内外に向けた拠点的な役割を果たすことを目指し、その取組みを積極的に進めたか。			① 公募団体等への展覧会会場の提供(国立新美術館) 公募展団体数:69 団体 年間利用室数:延べ 3,500 室／年 稼働率:100% 入館者数:1,259,966 人 【公募団体への展覧会会場の提供(国立新美術館)過去の実績】					各館における新しい芸術表現への取組については、入館者数が目標入館者数を下回る事例もあるが、国立新美術館における平成 24 年度[第 16 回]文化庁メディア芸術祭」のような基本的活動の充実や、様々な企画展内にビデオや動画像の資料・作品を展示する場面が増えるなど、新しい芸術表現への取組は着実に成果を収めたと評価する。 東京国立近代美術館フィルムセンターが、第 68 回国際フィルム・アーカイブ連盟北京会議において開催されたシン	
			利用団体数			69 団体	69 団体	69 団体	69 団体
入館者数			1,317,508	1,309,747	1,246,840	1,266,989	1,253,764	1,259,966	

	1 公募団体等から寄せられた意見・要望も参考としつつ、公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため、以下のような取組を行った。 ・作品搬入出時の車両の入退館時間の指定や駐車場の割振りを団体ごとに実施 ・作品用エレベータの使用時間割振りや使用備品の事前配置等の徹底 ・審査、展示等に必要な備品の充実 ・展示作品の素材や陳列方法等について、施設の管理運営上問題の生じる可能性のある公募団体等との事前協議の徹底 ・公募展運営サポートセンターにおいて、使用公募団体等に関する電話（国立新美術館公募展案内ダイヤル）への問い合わせ対応の実施 ・公募展のポスター掲示や公募展開催案内チラシの作成及び配布による広報の実施 ・館ホームページの公募展紹介ページに、文字情報に加えポスター等の画像情報を掲載することにより広報を充実 ・国立新美術館ニュースへ公募団体からの寄稿を掲載することにより、広報の支援を実施 ・公募展と企画展の観覧料の相互割引について、実施団体の情報を館内で周知 2 公募団体等が行う教育普及活動 館を使用する公募団体等が実施する教育普及活動に対し、講堂及び研修室の提供や運営管理上必要な助言、参加者の動線の確保等のサポートを行った。また、館ホームページへ情報を掲載し普及・広報の支援を実施した。 3 平成 26 年度に展示室（公募展用）を使用する 69 団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）を決定した。 ②新しい芸術表現への取組み 【東京国立近代美術館本館】 <table><tr><th>展覧会名</th><th>日数</th><th>ジャンル</th><th>入館者数</th><th>目標数</th><th>共催者</th></tr><tr><td>平成 24 年度第 1 回所蔵作品展「近代日本の美術」</td><td>33</td><td>ビデオ・アート</td><td>36,337</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の 100 年」第 1 部</td><td>76</td><td rowspan="2">ビデオ・アート（コミッション・ワーク（注文制作）を含む）</td><td>101,647</td><td>100,000</td><td>NHK，NHKプロモーション</td></tr><tr><td>平成 24 年度第 2 回所蔵作品展「MOMATコレクション」</td><td>59</td><td>27,516</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>フランス・ベーコン展</td><td>22</td><td>ビデオ・アート</td><td>28,552</td><td>45,000</td><td>日本経済新聞社</td></tr></table> ※なお、所蔵品ギャラリーのリニューアル工事に際しての夏期休館中、建築事務所スタジオ・ムンバイに	展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者	平成 24 年度第 1 回所蔵作品展「近代日本の美術」	33	ビデオ・アート	36,337	—	—	「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の 100 年」第 1 部	76	ビデオ・アート（コミッション・ワーク（注文制作）を含む）	101,647	100,000	NHK，NHKプロモーション	平成 24 年度第 2 回所蔵作品展「MOMATコレクション」	59	27,516	—	—	フランス・ベーコン展	22	ビデオ・アート	28,552	45,000	日本経済新聞社	ポジウム「世界のアニメーション」に参加し、基調講演や報告、及び日本の初期アニメーション作品の上映を通じて、近年注目される日本のアニメーション映画について歴史的な理解を深めた意義は高く評価できる。
展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者																										
平成 24 年度第 1 回所蔵作品展「近代日本の美術」	33	ビデオ・アート	36,337	—	—																										
「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の 100 年」第 1 部	76	ビデオ・アート（コミッション・ワーク（注文制作）を含む）	101,647	100,000	NHK，NHKプロモーション																										
平成 24 年度第 2 回所蔵作品展「MOMATコレクション」	59		27,516	—	—																										
フランス・ベーコン展	22	ビデオ・アート	28,552	45,000	日本経済新聞社																										

よる日本初の建築プロジェクトである「夏の家」、「パフォーマンス」をテーマにプログラムを組んだ連続14日間のイベント「14のタペ」を開催した。

【東京国立近代美術館フィルムセンター】

平成24年4月23日から28日まで中国電影資料館で行われた第68回国際フィルム・アーカイブ連盟北京会議で開催されたシンポジウム「世界のアニメーション」において、フィルムセンター主幹及び研究員がそれぞれ基調講演と講演を行った。あわせて、このシンポジウムに連動した上映会「珍宝級世界動画電影展映」では、『動絵狐狸達引』（1933年）など日本の初期トーキー・アニメーション映画6作品、大藤信郎監督と関連作品7作品に加え、平成23年度にデジタル復元を行った政岡憲三監督『くもとちゅうりっぷ』（1943年）デジタル復元版のプレミア上映を行い、アニメの原点と言える初期アニメーション映画の豊かな創造性と卓抜な技術を、世界各国から参加した多くのアーキビストに紹介した。

海外における日本の初期アニメーション映画については、シネマテーク・ド・グルノーブル（FIAF加盟機関）が主催した第35回グルノーブル野外短篇映画祭に6本、スウェーデン映画協会（FIAF加盟機関）が国内3会場で主催した日本のアニメーション映画特集に6本を貸与し紹介に努めた。

【京都国立近代美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
すべての僕が沸騰する —村山知義の宇宙—	33	アニメーション	10,086	10,000	読売新聞社、 美術館連絡 協議会

・我が国映画史上における最初のアニメーション作品としても貴重な村山知義の「三匹の小熊さん」（1931年）を、同展会期中に展覧会場で上映した。

【国立西洋美術館】

・国立西洋美術館本館の世界遺産登録について

平成23年6月にパリのユネスコ本部で開催された第35回世界遺産委員会において、国立西洋美術館を含む「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献」の推薦案件が「記載延期」と決定されて以降、平成27年2月の改訂推薦書の提出を目指して登録推進事業を継続している。

国立西洋美術館本館は、戦後日本の建築に大きな影響を与えた世界的建築家ル・コルビュジエの作品として国の重要文化財に指定され、同時に世界遺産にも推薦されていることから、建物の「保存管理（活用）計画」がそれぞれにおいて求められている。そのため、外部有識者を含めた国立西洋美術館修理検討委員会を開催し、さらに文化財保存計画協会の協力も得て、平成25年8月の完成を目指し同計画の策定作業を開始した。

また、世界遺産登録においては地元からの支持も重要な要素であるため、地元台東区と協力し様々な形で館の広報活動を行う一方、イコモス関係者やル・コルビュジェ財団関係者との専門家会議等に、ル・コルビュジェ研究者である客員研究員を 7 回にわたり派遣し、世界遺産登録に係る国際情勢の情報収集を行った。

【国立国際美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
夢か、現か、幻か	56	映像及び写真表現	12,473	15,000	—

・欧米では「time-based media」とされる映像、インスタレーションやパフォーマンスなどの新しい表現様式による作品を収蔵作品としていかに受け入れ、それを管理、保存、修復するかをテーマに調査研究を進め、当該分野では先進国である英国やドイツなど各国の美術館や関係機関などとの連携を進めている。

【国立新美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
「具体」—ニッポンの前衛 18 年の軌跡—	60	映像、パフォーマンス	26,700	27,000	—
平成 24 年度[第 16 回]文化庁メディア芸術祭	11	ビデオ・アート、インタラクティブ・アート、アニメーション、マンガ、ゲーム等	51,819	45,000	文化庁メディア芸術祭実行委員会（文化庁、国立新美術館）
カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—	11	建築、デザイン、映像	15,670	6,000	ロザンゼルス・カウンティ美術館

・アニメーション表現などの新しい視覚表現を紹介するための試みとして、(A)「インターカレッジアニメーションフェスティバル(ICAF)2012」への特別協力を行い、(B)「TOKYO ANIMA!2012 秋」及び「TOKYO ANIMA!2013 春」への共催を実施した。(A)の ICAF2012 では国内の大学など 21 機関の学生によるアニメーション作品に加え、韓国とヨーロッパの映像作品を 4 日間にわたり講堂と研修室 AB にて上映し、日本のアニメーション表現のこれからの可能性を紹介する機会となった。4 日間の会期中、来場者は 808 名であった。(B)の「TOKYO ANIMA! 2012 秋」は、約 30 名の若手映像作家の近作・新作を中心に 2 日間にわたり上映し、延べ 1,301 名の来場者があった。

平成 25 年 3 月に開催されたアートイベント「六本木アートナイト 2013」に参画し、「TOKYO

	ANIMA!2013 春」を開催し、延べ 686 名の来場者があった。	
--	-------------------------------------	--

【(小項目)1-1-3】情報の発信							【評定】			
【法人の達成すべき目標(計画)の概要】 (3)美術に関する情報の拠点としての機能の向上 国立美術館として美術に関する情報の拠点としての機能を向上させるため、国立美術館及び各館のホームページの充実のほか、所蔵作品に関する情報や展覧会活動、その他の活動状況を、情報通信技術を活用して積極的に広く社会に紹介し、国立美術館についての理解を得るよう取り組む。 また、国内外の美術に関する情報の収集・提供・利用の促進に取り組むとともに、国立美術館が保有する所蔵作品情報等について、関係機関と連携協力し、検索できる環境を構築する。 ① ICT(情報通信技術)を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等の積極的な情報発信やホームページの充実を図り、ホームページのアクセス件数の年間の平均が、前中期目標期間の年間平均を上回る実績となるよう取り組む。 ②-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、展覧会活動の推進に役立てるとともに、図書室等において芸術文化に関する情報サービスを広く提供し、その利用者数が前中期目標期間の年間平均(新規開館により利用者が著しく増加した年度の実績を除く)を上回るよう取り組む。 ②-2 所蔵作品データ、所蔵資料データのデジタル化を一層推進し、ネットワークを通じてより良質で多様なコンテンツの提供を進める。特に、各館におけるナショナルコレクションを広く周知するため、所蔵作品総合検索システムの充実を図ることとし、各年度末における掲載作品数(全所蔵作品数に占める掲載件数)の割合が、前中期目標期間の年間平均を上回るよう取り組む。 ②-3 国立美術館全体の機能として、ネットワーク共有を前提とするIDC(インフォメーションデータセンター)を確立し、美術館における情報技術の活用策を積極的に開発しながら、その知見を広く共有化することに取り組む。							B			
							H23	H25	H26	H27
							A			
							実績報告書等 参照箇所			
							<実績報告書> P12～16 (3)美術に関する情報の拠点としての機能の向上 ①情報通信技術(ICT)を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等 ②美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実			

【インプット指標】						
(中期目標期間)	H19	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(百万円)	788	1,153	1,156	1,288	1,229	1,127
従事人員数(人)	61	59	59	57	57	54

1) 決算額は損益計算書 教育普及事業費を計上している。(本項目は教育普及事業費の一部であり、個別に計上できないため、教育普及事業費全額を計上している。)

2) 従事人員数は、すべての研究職員数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準	実績	分析・評価									
○ 国立美術館に関する情報を広く社会に紹介し、国立美術館についての理解を得るよう、以下のことに取り組んだか。 また、国内外の美術に関する情報の収集・提供・利用の促進に取り組むとともに、国立美術館が保有する所蔵作品情報等に	① 情報通信技術(ICT)を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等 ア ホームページアクセス件数 <table> <tr> <th>館名</th><th>アクセス件数 (ページビュー)</th><th>目標数 (第2期平均)</th></tr> <tr> <td>本部</td><td>11,580,546</td><td>9,076,555</td></tr> <tr> <td>東京国立近代美術館</td><td>13,678,742</td><td>10,500,075</td></tr> </table>	館名	アクセス件数 (ページビュー)	目標数 (第2期平均)	本部	11,580,546	9,076,555	東京国立近代美術館	13,678,742	10,500,075	ホームページのアクセス件数は、目標数を大きく上回っており、展覧会情報や調査研究成果などの公表も積極的に実施されており、評価できる。また、新たな取組として、新しい情報サービス
館名	アクセス件数 (ページビュー)	目標数 (第2期平均)									
本部	11,580,546	9,076,555									
東京国立近代美術館	13,678,742	10,500,075									

について、関係機関と連携協力し、検索できる環境を構築したか。

・ICT(情報通信技術)を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等の積極的な情報発信やホームページの充実を図り、ホームページのアクセス件数の年間の平均が、前中期目標期間の年間平均を上回る実績となるよう取り組んだか。

(本館・工芸館・フィルムセンター含む)

京都国立近代美術館

国立西洋美術館

国立国際美術館

国立新美術館

計

2,199,673

11,243,430

2,864,365

10,403,992

51,970,748

2,244,585

6,313,881

2,266,576

9,372,754

39,774,426

【数値目標の達成状況】

・ホームページアクセス件数(ページビュー)

実績 51,970,748 件

目標 39,774,426 件

目標達成率 130.7%

【ホームページアクセス件数 過去の実績】

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
アクセス件数 合計	18,032,849	34,067,757	47,268,386	50,292,663	49,210,479	46,207,321	51,970,748
目標数	5,724,279(第 1 期平均)					39,774,426	

※目標数は前中期目標期間のアクセス件数の平均とする。

イ 各館の ICT 活用の特徴

(ア)本部

平成 20 年度にリニューアルした法人ホームページにおいては、引き続き国立美術館 5 館の開催展覧会及び各種催事等トピックスの一覧を維持した。

「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」については、平成 23 度より「指導者研修Web報告」のページを充実させて、平成 24 年度も継続してその記録を公開した。

(イ)東京国立近代美術館

平成 19 年度より稼働のコンテンツ・マネジメント・システム(CMS)を用いて、ホームページ・コンテンツの追加更新を迅速化し、平成 24 年度は特に「60 周年記念サイト」を設けてポスター・アーカイブも公開するなどして、記念事業の広報に努めた。

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字画像データを追加するとともに、同システムへの著作権のある作品画像掲載を進めるため、許諾を得た水彩・素描その他の作品 237 点について画像を新規登録した。

また、平成 24 年度から新たに工芸についての著作権者情報を整備するとともに、初年度として

への参加ども評価できる。

美術情報等の基礎資料の収集、デジタル化等については、各館とも着実に進捗しており、今後はこれらの積極的な公開と5美術館の連携を一層進めてもらいたい。

また、フィルムセンターにおいては、フィルム以外の映画関連資料についてテキストデータのデジタル化が進捗しているが、これらのデータを速やかに公開することが望まれる。

さらに、国立美術館5館全体における情報ネットワークも進展している。今後は、研究紀要などの積極的な公開とともに、情報ネットワークや機関リポジトリを活用したより一層充実した情報発信の取組が望まれる。

図書室利用者数については、目標値を下回っており、これは、国立新美術館の新規開設時での利用者の著しい増加が目標値を高く押し上げていることに起因するとしても、一方で情報化時代の図書室の在り方については多様な観点から利用者の期待をよく検討すべきである。

	陶磁の著作権許諾申請手続を開始した。 平成 23 年度に着手した東京国立近代美術館所蔵作品管理システム並びに独立行政法人国立美術館総合目録のデータ登録更新とインターフェースの改良を、他の国立美術館各館と連携して実装させた。 平成 23 年度に欧米主要美術図書館横断検索システムである artlibraries.net (http://artlibraries.net/index_en.php)と国立美術館の図書検索システム(東京国立近代美術館及び国立西洋美術館)の連携可能性について、国立情報学研究所と連携して始めた受託研究の成果により、artlibraries.net への参加を実現させた。 フィルムセンターでは、事業関連の情報を提供する「NFC メールマガジン」の登録者が着実に増加している。NFOCD(フィルムセンターデータベース)については、人物情報の統合を進めるとともに、フィルムの運用管理機能、資料整理の深化及びプレス資料(プレスシート、試写状他)をカテゴリーに加えるという重要な改造を行った。 さらに、映画関連資料へのアクセス希望に対しては、図版提供を速やかに行うため、また、識別を容易にするため、適宜デジタル・データへのスキャンや簡易撮影を行い、共有ファイル内に蓄積を進めている。 (ウ)京都国立近代美術館 展覧会の内容や案内に関する情報、講演会及び教育普及関連のイベント案内、さらには「友の会」の行事報告に加え、コレクション・ギャラリー(所蔵作品展示)の展示替えごとに出品リストや小企画などのテーマ展示についても解説と出品リストをホームページに掲載し、情報発信に努めた。 また、「開館 50 周年記念特別展」の開催に際しては、展覧会広報の一助として、ホームページ上に、当館独自の展覧会として初めて「特設サイト」を開設した。 さらに、美術館ニュースや研究論集についても、掲載内容をホームページ上に告知した。 (エ)国立西洋美術館 収蔵作品情報管理システムに作品関連文書を管理する機能を新たに付加し、作品に関する多様な情報資源を蓄積・公開する基盤を強化した。また、平成 23 年度に引き続き科学研究費補助金を受け、収蔵作品データの充実に努め、平成 24 年度は署名・年記情報の充実に重点的に取り組んだ。ホームページ上に公開している所蔵作品データベース(「作品検索」)を時代の変化に即して改良し、スマートフォン及びタブレット等 Flash 非対応端末の表示不良等の問題解決を図った。さらに、本データベースが平成 25 年度開講の放送大学『博物館情報・メディア論』でデジタル・アーカイブ活用モデルとして取り上げられることとなり、取材に全面的に協力した。 収蔵品情報以外では、従来から要請の多かった松方コレクション関連情報の公開に関連し、その第一段階として科学研究費補助金の助成を受けて、大正から昭和期の松方コレクション展に関する調査を行い、その成果をホームページ上で公開する準備を進めた。このほか急速に拡大しつつあるソーシャル・メディアへの取組として、公式 facebook ページを開設した。「Google アートプロジェクト」への参画も果たし、所蔵品 164 点を同サイトにて公開した。	
--	---	--

- ・美術史その他の関連諸学に関する基礎資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、展覧会活動の推進に役立てるとともに、図書室等において芸術文化に関する情報サービスを広く提供し、その利用者数が前中期目標期間の年間平均(新規開館により利用者が著しく増加した年度の実績を除く)を上回るよう取り組んだか。

(オ)国立国際美術館

平成 24 年度は、平成 23 年度に実施したホームページのリニューアルにより充実を図った展覧会情報、関連イベント情報、施設利用案内について、さらなる充実に努めた。

また、引き続き、展覧会ごとに英語版ホームページを作成し、海外への情報発信、外国人来館者への情報提供に努めた。

(カ)国立新美術館

展覧会情報検索サービス「アートコモンズ」において、引き続き日本国内の美術館、画廊、美術団体が開催する展覧会の情報を収集し、検索可能とすることに努めた。平成 24 年度においては 4,067 件の展覧会情報を 1,170 の美術館・美術団体・画廊の協力により収集・公開した。

また、ホームページを通じて、「活動報告」の公開を含め、当館の活動を紹介するとともに、これまでのメールマガジンの発行に加え、ソーシャルネットワークサービス(SNS)の活用により、昨今のインターネットの利用形態の変化に対応した幅広い情報発信の道筋について実践的に試行・検証した。

② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

ア 図書資料等の収集

館名		収集件数	累計件数	利用者数	目標利用者数 (第2期平均)
東京国立 近代美術 館	本館	5,309	124,367	2,113	2,921
	工芸館	887	22,888	251	356
	フィルムセンター	3,195	39,374	3,731	3,273
京都国立近代美術館		1,472	22,453	—	—
国立西洋美術館		1,006	46,231	396	399
国立国際美術館		612	36,979	—	—
国立新美術館		7,013	126,311	21,917	44,365※
計		19,494	418,603	28,408	51,314※

注 東京国立近代美術館は本館 4 階、京都国立近代美術館は 4 階、国立西洋美術館は 1 階、国立国際美術館は地下 1 階に図録等が閲覧できる情報コーナーを設け、入館者が自由に閲覧できるようにしており、その場所については、利用者数の把握はしていない。

※ 新規開館により利用者が著しく増加した年度(平成 18 年度及び平成 19 年度)の実績を除く

【数値目標の達成状況】

- ・図書室利用者数
実績 28,408 人

	目標 51,314 人 目標達成率 55.4% ※目標未達成の原因・理由 目標未達成の要因として、主に国立新美術館の利用者数が挙げられる。新規開館当初に利用者数が著しく増加した年度（平成 18 年度及び平成 19 年度）以降も、アートルibraryという新規施設の見学を目的とした利用者が多く見られた。近年は調査・研究目的に所蔵資料の閲覧等や複写を行う利用者が定着してきており、利用者数に落ち着きが見られる。 イ 特記事項 (ア)東京国立近代美術館 本館では、平成 18 年度開催の藤田嗣治展の後、19 年度に寄贈された藤田家旧蔵書は平成 22 年度に登録を完了し、検索公開をしているが、その中から 52 点が平成 24 年度開催の「藤田嗣治と愛書都市パリ」展（渋谷区立松濤美術館、北海道立近代美術館巡回、2012 年 7-11 月）に出品された。 60 周年事業の一環である 60 年史のデータ集成及び編集作業を進めて、ミュージアム・アーカイブの整備を合わせて進め、その成果として『東京国立近代美術館 60 年史』を刊行した。あわせて、美術出版社より『美術家たち証言—東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』選集』を出版した。 工芸館では、比較的高額な資料の購入があったことにより収集件数は減少したが、内容の一層の充実を図ることができた。 フィルムセンターでは、一定の網羅性を目指して、映画関連の新刊書と雑誌の収集を行うとともに、未所蔵の古書や一般の書籍流通ルートには乗らない刊行物の収集にも努めている。 公開への準備としては、今後のデータベース登録を見越して図書室内の映画雑誌、外国映画祭カタログのリスト化を進めている。映画パンフレットについては OPAC データベースへの登録が進み、当初公開された分の外国映画パンフレットの登録がほぼ終了している。 (イ)京都国立近代美術館 平成 24 年度が、研究の最終年となる科学研究補助金（当館学芸課長が研究代表者となり、4 か年にわたる研究）によって、平成 25 年度開催予定の展覧会に関係する書籍を購入するとともに、研究分担者として外部の研究者と連携して研究を進めている科研費によっても、図書を収集している。 (ウ)国立西洋美術館 欧米の主要美術図書館が構築している国際的な図書館横断検索システム（「artlibraries.net」）への参画を企図し、東京国立近代美術館とともに国立情報学研究所との共同研究に従事した。美術史その他関連諸学に関する資料の収集の一環として、雑誌文献データベースである「Art	
--	--	--

Source」を試験的に契約し、レファレンス・サービスの向上を図った。次年度以降、本格的に運用する予定である。このほか研究資料センターの利用者サービス向上のため、電子メールでの予約受付を開始した。

図書資料以外では、展覧会の写真アルバムや関連文書等、国立西洋美術館の事業に関する各種記録の整理に着手し、その成果を『国立西洋美術館名作選』収録の年表に結実させた。

(エ) 国立国際美術館

国内外の現代美術に関連する図書資料等を中心に収集を継続した。特に、企画展や所蔵作家関連の文献に加え、国際展に関する文献なども積極的に収集を行った。(購入:156冊、寄贈:456冊)

(オ) 国立新美術館

引き続き日本の展覧会カタログを中心に網羅的、遡及的収集に努め、国内約400、国外約100の美術館・博物館と展覧会カタログの相互寄贈関係を構築した。平成23年度までに寄贈された複数の個人からの大口寄贈資料についての整理作業を進め、一部を平成25年度に公開できる状況となった。所蔵資料の増加への対応のため、別館書庫内の書架増設を行うとともに、別館1階アートライブラリー別館閲覧室の開室準備を行った。アートライブラリー別館閲覧室は平成25年度に開室予定であり、これまで予約制だった所蔵資料が当日出納(脆弱な資料等一部を除く)できるようになり、資料提供サービスの向上が実現される予定である。

【図書資料等の収集 過去の実績】

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
収集体数	64,243	25,649	25,955	25,495	21,812	23,848	19,494
累計件数	280,299	354,901	379,896	353,351	375,120	398,972	418,603
利用者数合計	52,189	123,700	66,453	45,442	42,044	29,186	28,408

- ・ 所蔵作品データ、所蔵資料データのデジタル化を一層推進し、ネットワークを通じてより良質で多様なコンテンツの提供を進める。特に、各館におけるナショナルコレクションを広く周知するため、所蔵作品総合検索システムの充実を図ることとし、各年度末における掲載作品数(全所蔵作品数に占める掲載件数)の割合が、前中期目標期間の年間平均を上回るよう取り組んだ。

ウ 所蔵作品データ等のデジタル化

館 名		画像データ				テキストデータ			
		デジタル 化件 数	デジタル 化累 計	累積公開 件数 (公開率)	目標公開 率(第2 期平均)	デジタル 化件 数	デジタル 化累計	累積公開 件数 (公開率)	目標公開 率(第2 期平均)
東京国立近代美術館	本館	250	10,559	6,927 (56.1%)	33.0%	162	11,032	10,433 (84.5%)	97.3%
	工芸館	1,108	4,037	425 (12.9%)	5.5%	448	4,353	3,155 (96.0%)	99.5%

	フィルムセンター (映画関連資料)	—	—	—	—	33,248	150,758	—	—
京都国立近代美術館		76	7,465	2,028 (17.8%)	11.4%	2,769	13,201	11,895 (104.3%)	85.8%
国立西洋美術館		309	5,627	203 (3.7%)	4.4%	117	4,967	4,599 (83.3%)	94.7%
国立国際美術館		335	6,762	3,629 (51.7%)	19.0%	182	7,691	6,794 (96.8%)	97.6%
計		2,078	34,450	13,212 (33.4%)	17.8%	36,926	192,002	36,876 (93.2%)	93.9%

注「累計公開件数」は、所蔵作品総合目録における画像及びテキストデータの公開件数である。なお、国立西洋美術館は「国立西洋美術館所蔵作品データベース」で画像データ 4,664 点を公開している。京都国立近代美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載しているため、テキストデータの公開率が高くなっている。フィルムセンターについては、映画フィルムを除いた映画の関連資料についての件数を掲載している。

【数値目標の達成状況】

・所蔵作品データ等のデジタル化(画像データ)

実績 33.4%

目標 17.8%

目標達成率 187.7%

・所蔵作品データ等のデジタル化(テキストデータ)

実績 93.2%

目標 93.9%

目標達成率 99.3%

※目標未達成の原因・理由(テキストデータ)

目標未達成の主な要因は、東京国立近代美術館(本館)及び国立西洋美術館の累積公開率にあるが、東京国立近代美術館においては『東京国立近代美術館 60 年史』の編纂を契機として、一括資料を個別に換算するなど計数方法等の見直しを行ったことにより母数となる所蔵作品数が増加したことによる。国立西洋美術館においては平成 24 年度に一括寄贈を受けた宝飾品コレクション 800 余点について、平成 25 年度以降の公開に向けて、現在、デジタル化作業を進めている。

- ・ 国立美術館全体の機能として、ネットワーク共有を前提とするIDC（インフォメーションデータセンター）を確立し、美術館における情報技術の活用策を積極的に開発しながら、その知見を広く共有化することに取り組んだ。

【所蔵作品データ等のデジタル化 過去の実績】

（画像データ）

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
デジタル化 件数	6,224	3,423	2,484	859	753	1,311	2,078
デジタル化 累計	24,889	28,279	30,425	31,036	31,464	32,614	34,450
公開件数	2,168	3,205	6,415	7,257	10,491	12,297	13,212

（テキストデータ）

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
デジタル化 件数	7,982	10,078	6,700	10,221	5,820	4,141	36,926
デジタル化 累計	116,799	127,717	134,761	144,983	150,797	154,274	192,002
公開件数	28,355	30,215	30,723	31,666	32,276	33,382	36,876

エ インフォメーションデータセンター（IDC）の確立

国立美術館5館全体においてVPN（暗号化された通信網）を採用し、情報ネットワークの安定かつ高速化を実現するとともに、VPNを用いたグループウェア及びテレビ会議システムを継続して稼働させた。

国立美術館所蔵作品総合目録検索システムは引き続きデータの追加更新を行うとともに、画像掲載の増加を図るため、平成23年度許諾を得た水彩・素描その他の作品929点の画像を掲載するとともに、平成24年度から新たに工芸についての著作権者情報を整備するとともに、初年度として陶磁の著作権許諾申請手続を開始した。

平成23年度に着手した東京国立近代美術館所蔵作品管理システム並びに独立行政法人国立美術館総合目録のデータ登録更新とインターフェースの改良を、国立美術館各館と連携して実装させた。

平成23年度に欧米主要美術図書館横断検索システムである artlibraries.net (http://artlibraries.net/index_en.php) と国立美術館の図書検索システム（東京国立近代美術館及び国立西洋美術館）の連携可能性について、国立情報学研究所と連携して始めた受託研究の成果により、artlibraries.net への参加を実現させた。

【(小項目)1-1-4】教育普及活動の実施状況						【評価】			
【法人の達成すべき目標(計画)の概要】 (4)国民の美的感性の育成 ① 国立美術館における美術教育に関する調査研究の成果を踏まえ、学校や社会教育施設等との連携強化により、子どもから高齢者までを対象とした幅広い学習機会を提供し、各館の年間の平均参加者数が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう、それらの参加者数の増加に積極的に取り組む。 ② ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。また、ボランティアの参加人数及び活動日数の増加に積極的に取り組む。 ③ 映画フィルム・資料の所蔵作品を活用し、児童生徒を対象とした「こども映画館」の開催やジュニアセルフガイドの作成など教育普及活動に積極的に取り組む。						A			
						H23	H25	H26	H27
						A			
						実績報告書等 参照箇所			
						＜実績報告書＞ P16～21 (4)国民の美的感性の育成 ①幅広い学習機会の提供 ②ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業 ③映画フィルム・資料を活用した教育普及活動			
【インプット指標】									
(中期目標期間)		H19	H20	H21	H22	H23	H24		
決算額(百万円)		788	1,153	1,156	1,288	1,229	1,127		
従事人員数(人)		10	10	11	11	11	12		
1)決算額は損益計算書 教育普及事業費を計上している。 2)従事人員数は、教育普及事業を担当するすべての研究職員数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。									
評価基準			実績					分析・評価	
○ 国立美術館における美術教育に関する調査研究の成果を踏まえ、学校や社会教育施設等との連携強化により、子どもから高齢者までを対象とした幅広い学習機会を提供し、各館の年間の平均参加者数が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう、それらの参加者数の増加に積極的に取り組んだか。			① 幅広い学習機会の提供(講演会, ギャラリートーク, アーティスト・トーク等)					講演会、ワークショップ、ギャラリートーク、アーティストトークなどの幅広い学習機会の提供については、参加者数が目標を大きく上回るなど、その充実是十分に評価できる。 特に、各館における児童生徒に向けたきめ細かい教育的配慮、また教職員対象の取組は期待した成果を上げている。ゲスト作家の制作実演や、彫刻技法の	
			館 名		実施回数	参加者数	目標数 (第2期平均)		
			東京国立近代美術館	本館	99	17,278	5,509		
				工芸館	39	1,679	1,616		
				フィルムセンター	186	13,276	9,733		
			京都国立近代美術館		63	2,725	3,724		
国立西洋美術館		144	13,143	10,261					

	国立国際美術館	61	3,611	3,486	
	国立新美術館	84	22,539	10,518	
	計	676	74,251	44,847	
【数値目標の達成状況】					
・幅広い学習機会の提供(講演会, ギャラリートーク, アーティスト・トーク等)参加者数					
実績 74,220 人					
目標 44,847 人					
目標達成率 165.5%					
ア 各館の特徴					
(ア)東京国立近代美術館					
(本館)					
幅広い層への解説プログラム(所蔵品ガイド, ハイライトツアー, キュレータートーク, 音声ガイド, 子供用セルフガイドやイベント等)や来館者サービス(ライブラリ, ショップ, レストラン, 休憩室, バリアフリー情報, 夜間開館, 無料観覧日, MOMAT パスポート等)を一覧できるリーフレット「活用ガイド」を制作した。					
平成 24 年度は, 開館 60 周年を記念して多くの特別プログラムを実施した。とりわけ「Concerto Museo / 絵と音の対話」と「14 のタベ」は企画展ギャラリー内でコンサートやパフォーマンスを実施する全く新しい試みに取り組んだ。「だれでも MOMAT」では, 子どもから大人まで, 誰もが当館のコレクションに親しめることをコンセプトに5つのプログラムを開催した。					
(工芸館)					
「越境する日本人」展では連続講座を開催した。全 7 回のうち複数の講座に参加する来館者も見受けられ, 一つのテーマを多面的かつ深く掘り下げる試みが好評であった。「寿ぎの『うつわ』」展では出品作家の並木恒延氏によるトークに際して制作の実演も行い, 作品の背景を知る貴重な機会として強い関心が寄せられた。この事業に際しては多数の参加者が見込まれたことから, 国立新美術館の情報担当の研究員の技術協力を得て, 制作中の手元をスクリーンに映し出すとともに, 別室に中継して対応した。					
(フィルムセンター)					
平成 24 年度は, 大ホールの 3 企画及び展示室の 3 企画等で, 計 69 回のトーク・イベントを行った。これらに加え, 教育普及を目的とする上映イベントでは, 小中学生を対象とする「こども映画館」, 若い観客層の開拓を目的とした「カルト・ブランシュ〜期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画〜」及びユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント(「講演と弁士・伴奏付き上映 日活映画					

具体的紹介など、魅力的な内容は高く評価する。

フィルムセンターについては、キャンパスメンバーズの加盟校（東京国立近代美術館利用校）を対象に、フィルムセンターの施設と所蔵映画を利用して講義等を行える制度を導入したことは、大学等との連携を促進する上で有効な方策の一つとして評価できる。

講演会・ワークショップ・ボランティアの活用など、教育普及の分野からの連携や相互依存はますます高まっている。今後は、教育プログラムの経験者や専門家を置くなどきめ細かな対応をすべきである。

	の起源)」といった恒例行事に加え、研究員による講演解説付きの特別イベント「『地獄門』デジタル復元版特別上映会」を開催した。 東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業を新たに始め、国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校(東京国立近代美術館利用校)が、フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行うための整備を行い、4回の講義を実施したほか、大学等の学生が、フィルムセンターで映画の上映会又は展覧会を観覧したことを証明する「鑑賞証明カード」の配付を開始した。 (イ)京都国立近代美術館 平成24年度は、展覧会関連イベントとして鑑賞と制作を関連付けたワークショップを数多く開催した。世代の異なる参加者同士のコミュニケーションを意識し、年齢制限することなく、参加者を募った。また、三種類の異なるワークショップを企画・開催し、それぞれ2～3回行う機会を設けたことで、当館での学習支援活動が周知されることとなり、参加者の半分以上がリピーターとなった。 一方、学校との連携として、毎年京都市で夏休みに行われている小学校教員の教科別指導講座のうち、図画工作の会場が当館となり、京都市教育委員会の担当者と協力し、講座実現に向けて取り組んだ。京都市の小学校では、「図画工作」科を専科とする教員は配属されていないことから、新鮮な視点で「鑑賞教育」を授業に取り入れてもらう契機となったと思われる。 MoMAK Filmsの映画上映プログラムでは平成23年度に続き、ゲストトークを招いて、上映作に関連したトークイベントを行った。MoMAK Filmsの開催は当館の普及事業の柱ともなっており、映画鑑賞者を美術館に取り込むという意味でも貴重な機会となっている。 (ウ)国立西洋美術館 平成24年度は、「ファン・ウィズ・コレクション」と「ファン・デー」の2つのプログラムを、企画展「手の痕跡—国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描」と連携させるという初めての試みによって、来館者に彫刻作品を楽しむ多様な視点と数多くの機会を提供し、好評を博した。ファン・ウィズ・コレクション「彫刻の魅力を探る」では、東京藝術大学彫刻科研究室及び工芸科鋳金研究室内の協力を得て、ロダンとブールデルが用いた彫刻制作の技法を紹介する小企画展を「手の痕跡」展内に設け、技法に関連する創作プログラムも実施した。2日間にわたって開催した「ファン・デー」では、常設展と合わせて「手の痕跡」展も無料開放し、常設展関連の定番プログラムとなっている10分トークや建築ツアーを実施したほか、通常は小中学生のみに配布している「手の痕跡」展セルフガイドを希望者へ無料配布した。さらに、同展に関連し、彫刻の技法のデモンストレーションを大理石、ブロンズ、粘土といった素材別に行い、多くの参加者を得た。 (エ)国立国際美術館 引き続き、企画展ごとに講演会、対談、ギャラリートークなどを実施するとともに、小・中・高・特別
--	---

支援学校の教職員又は鑑賞教育に取り組んでいる方を対象に、美術館の活用法や子供による鑑賞の取組についての討議の場、情報交換の場として、「先生のための鑑賞ミーティング」を開催した。

また、上記のほか、以下の教育プログラムを実施した。

- ・鑑賞支援教材制作に関連した「ジュニア・セルフガイド」の発行（「国立国際美術館 35 周年記念展コレクションの誘惑」（H24.4.21～H24.6.24 開催）、「コレクション」（H24.7.7～H24.9.30, H24.10.13～H24.12.24, H25.1.19～H25.3.24 開催）で配布）
- ・大学の課外授業及びスクーリングによる団体鑑賞の受入れ（2 校を受入れ）
- ・小・中・高等学校団体鑑賞の受入れ（166 校を受入れ）
- ・教員研修会の実施（3 回）

（オ）国立新美術館

展覧会に関連した講演会やアーティスト・トークのほか、「セザンヌ」展、「大エルミタージュ美術館展」、「具体」展ではシンポジウムを企画し、展覧会の内容をより深く検証するためのイベントの開催に積極的に取り組んだ。

一方、平成 24 年度の新規事業の「カフェアオキ」は、国立新美術館長と様々な分野で活躍する著名人が対談や鼎談を行うトーク・イベントである。カジュアルな雰囲気の中で著名人を迎えてのトークは、一般の人々に分かりやすい言葉で解説し美術や美術館により親しんでもらうことを目的としたもので、大勢の参加者があった。

このほか、開館以来、教育普及事業の柱の一つとなっているアーティスト・ワークショップでは、平成 24 年度に初めて未就学児を対象にしたワークショップ「はじめてのアート」を開催し好評を得た。また、写真家の柴田敏雄氏によるワークショップでは、2 回にわたる講評のみを実施するなど、毎回参加者にとって最も有意義なプログラムを検討・企画し、ワークショップの内容を多様化し、充実させている。

【幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等）過去の実績】

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
実施回数	466	699	694	766	667	671	675
参加者数合計	28,724	53,034	48,940	52,354	41,183	51,653	74,220

○ ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図ったか。また、ボランティアの参加人数及び活動日数の増加に積極的に取り組んだか。

② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ア ボランティアによる教育普及事業

館名	ボランティア登録者数	ボランティア参加者数	事業参加者数
東京国立近代美 本館	41	378	3,627

ボランティアや支援団体による教育普及事業については、ボランティア登録者数が昨年度を上回っており、また、コンサートの開催や企業との連携などの着実な努力を評価する。

	術 館	工 芸 館	32	251	1,646	ボランティアによる教育普及については、オリジナル作品を体感的に経験する方法による取り組みの充実も窺える。
	京 都 国 立 近 代 美 術 館		35	142	—	
	国 立 西 洋 美 術 館		32	565	5,835	
	国 立 国 際 美 術 館		42	51	—	
	国 立 新 美 術 館		97	97	—	
	計		279	1,484	11,108	
イ 各館の特徴						
(ア)東京国立近代美術館						
本館では、リニューアル工事休館に合わせ、「MOMAT ガイドスタッフによる所蔵品ガイド」を 2 ヶ月半休止した。						
ガイドスタッフに対するフォローアップ研修では、9 月に奥村高明氏（聖徳大学教授）より「テート・モダンの鑑賞ハンドブックと子どもの鑑賞」、1 月に本間美里氏（大田区立矢口小学校教諭）より「ギャラリートーク分析について」をテーマに講演を依頼し、教育学的側面から鑑賞活動への理解を深めた。						
開館 60 周年記念プログラム「だれでも MOMAT」では、日頃の活動での経験を生かし、MOMAT ガイドスタッフが、「MOMATALK」、「アートカード・ワークショップ」及び「MOMAT パズル」の 3 つのプログラムを担当した。						
工芸館では、ボランティアガイドの 5 期メンバーが本格的に活動を開始し、平日朝の団体対応がスムーズになった。また、海外（ドイツ及びアメリカ）の専門家によるタッチ＆トークの調査希望があり、それぞれ英語タッチ＆トークに実際に参加した。						
(イ)京都国立近代美術館						
企画展ごとに、ボランティアスタッフによるアンケート調査の回収・集計を行った。						
(ウ)国立西洋美術館						
スクール・ギャラリートークへの参加を希望する学校が年々増えており、平成 24 年度は、平成 23 年度より約 700 名も多くの児童がトークに参加した。特に、台東区の協力により、区内の小・中学校の来館数が増加した。プログラムの開始から 4 年が経過した美術トークもさらに周知されてきたと見られ、参加者数は平成 23 年度より大幅に増えている。平成 23 年度までボランティア・スタッフが行っていた「びじゅつーる」の貸出業務はインターンと都立上野高校奉仕の課外授業の高校生の担当となり、その分ボランティア・スタッフは、人手がより必要なスクール・ギャラリートークなどで大いに活躍した。						
(エ)国立国際美術館						
学生ボランティアを広く募り、教育普及事業の実施補助、広報資料の発送、図書資料等の整理などの美術館運営の補助業務を実施することを通じて、美術館活動に接する機会を提供した。						

	なお、平成 24 年度は、「エル・グレコ展」の開催に当たり、ボランティアに協力を依頼し、展示室内の環境整備などを行い、美術館における展覧会活動についての理解を深める機会を提供した。 (オ)国立新美術館 学生ボランティアである「サポートスタッフ」として、開館以来最も多い 97 名が登録した。美術や美術史だけでなく、幅広い分野の専攻の学生が、講演会やシンポジウム、ワークショップの運営補助などの活動に参加した。 ウ 支援団体等の育成と相互協力による事業 (ア)コンサート等の実施 東京国立近代美術館本館では、NPO 法人日本音楽家協会及び日本音楽アカデミーの協力を得て、開館 60 周年を記念するイベントとしてコンサート「Concerto Museo / 絵と音の対話」を 3 日間にわたり開催した(1 階企画展ギャラリー, 入場無料)。(計 1 件 3 回) 京都国立近代美術館では、「KATAGAMI Style」展及び「山口華楊展」において、京都市立芸術大学の協力によりコンサートを開催した。(計 2 件, 2 回) 国立西洋美術館では、財団法人アルゲリッチ芸術振興財団及び上野のれん会との連携による「ピノキオ コンサート～子どもと大人ののための音・学・会 at 国立西洋美術館」、企画展関連企画「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の 400 年 レクチャー・コンサート」、東京藝術大学との連携による「Museum X'mas in 国立西洋美術館《美術館でクリスマス》」クリスマスキャロル・コンサート及びジャパンアカデミーフィルハーモニックとの連携による「ファン・デー 前庭コンサート」を開催した。(計 4 件, 11 回) 国立国際美術館では、「リアル・ジャパネスク:世界の中の日本現代美術」に関連し、澤野工房と協力した大石学によるピアノコンサートとともに、財団法人ダイキン工業現代美術振興財団と協力した「ミュージアムコンサート Vol.17」を開催した。(計 2 件, 2 回) 国立新美術館では、企業協賛金を活用した館主催のロビーコンサート「国立新美術館サマー・ジャズコンサート」及び「国立新美術館クリスマス・オペラコンサート」(制作:新国立劇場)を開催した。(計 2 件, 2 回) (イ)ぐるっとパスへの参加 東京の美術館・博物館等 75 施設が参加する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス 2012」及び関西の美術館・博物館等 65 施設が参加する「ミュージアムぐるっとパス・関西 2012」に参加し、所蔵作品展観覧料の無料化又は割引や、企画展観覧料の割引などを実施した。 (ウ)NPO 法人との連携 東京国立近代美術館本館では、NPO 法人日本音楽家協会及び日本音楽アカデミーの協力を得て、開館 60 周年を記念するイベントとしてコンサート「Concerto Museo / 絵と音の対話」を 3 日間
--	--

	にわたり開催した(1 階企画展ギャラリー, 入場無料)。(平成 24 年 8 月 10 日～8 月 12 日, 計 3 回) 国立西洋美術館では, ジャパンアカデミーフィルハーモニックとの連携による「ファン・デー 前庭コンサート」を開催した。(平成 24 年 11 月 10 日, 11 日, 計 4 回) (エ)企業との連携 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館では, 三菱商事株式会社と共同で行っている障害者のための鑑賞プログラムを実施した。 東京国立近代美術館では, 「美術にぶるっ! 展」(平成 24 年 11 月 24 日)及び「フランス・ベーコン展」(平成 25 年 3 月 23 日)の閉館後に障がい者特別内覧会を実施した。「美術にぶるっ! 展」の参加者は 102 名, 「フランス・ベーコン展」の参加者は 98 名であった。 国立西洋美術館では, 「ベルリン国立美術館」展(平成 24 年 7 月 14 日)を対象に障がい者特別内覧会を実施し参加者は 236 名であった。 国立国際美術館では, 企業とのタイアップによる前売券の発券, 企業等が発行する印刷物・ホームページへの展覧会情報の掲載等, 企業との連携を進めた。 ①朝日新聞グループ 朝日友の会, ㈱阪急阪神カード, ㈱京阪カード及び大阪市交通局の情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに割引を実施した。 ②近隣ホテルと連携し, 広報誌への情報掲載及びホームページのリンク等を実施した。 ③「Osaka メセナカード」と連携し, カードの普及広報を行った。 ④近畿地方整備局の中之島活性化実行委員会に協力するとともに, 同委員会の実行企業である京阪電鉄の広報誌において, 展覧会及びイベントの広報を行った。 国立新美術館では, 外部協力者(参与)と連携し, 外部資金の募金活動を行い, コンサート事業等の支援を目的に, 企業から協賛金を受け入れた。企業協賛金を活用した事業として, 託児サービスを提供するとともに, JAC(Japan Art Catalog)プロジェクトにより, 海外の日本美術の研究拠点 4 箇所へ国内で開催された展覧会図録を寄贈した。 (オ)その他 東京国立近代美術館では, 近代美術協会との連携により, 平成 25 年 1 月 2 日に工芸館所蔵作品展「近代日本の漆工芸」の観覧料を無料とした。また, 本館及び工芸館の来館者には, 過去の展覧会図録, ポスター及びオリジナルグッズのプレゼントを行った。さらに, 本館では開館 60 周年を記念して「60 周年記念ピンバッジ」のプレゼントも行った。(入館者数 本館 2,426 人, 工芸館 2,443 人) また, 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館では, 東京都が実施する「家族ふれあいの日」事業に参加し, 子ども連れ家族来館者の観覧料(フィルムセンターは 7 階展示室)を無料又は割引にした。	
--	---	--

○ 映画フィルム・資料の所蔵作品を活用し、児童生徒を対象とした「こども映画館」の開催やジュニアセルフガイドの作成など教育普及活動に積極的に取り組んだ。

【ボランティアによる教育普及事業 過去の実績】

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
事業参加者数	13,656	9,188	7,855	8,229	9,777	12,385	11,108
ボランティア登録者数	228	220	243	212	240	252	279
ボランティア参加者数	1,665	1,518	1,466	1,444	1,756	1,528	1,484

③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動

「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@home 2012」は、フィルムセンターが提供する映画コレクションを、京都の会場で上映する趣旨で、平成 19 年度に開始されたが、年に 1 回(各回 1 日)を仮設の会場で開催していた初年度及び第 2 年度から、様々な方法を模索しつつ徐々に拡充している。

「第 5 回中之島映像劇場 浪花の映像【キネマ】の物語—東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品から—」は、平成 22 年度より国立国際美術館が始めた表題の事業を、年 1 回フィルムセンターとの共催により行っている事業であるが、平成 23 年度に比べ入館者数を 50 人以上増やすことができた。また、各作品の撮影場所の同定を通して近代建築と映画との親和性を明らかにした、客員研究員による調査結果を反映した当日プログラムの配布や、上映前の解説を通じて、観客の作品理解を一層促進することができた。

これらの共催事業は、関西におけるフィルムセンター所蔵作品の定期的な上映拠点の形成に、堅実な成果を上げている。

＜映画フィルム・資料等を活用した教育普及活動＞

・「こども映画館 2012 年の夏休み」回数:4 回、参加者数:394 人

・相模原市内の小・中学生を対象とした上映会(施設見学)(相模原市立由野台中学校)
回数:2 回、参加者数:246 人

・『6.13「はやぶさ」帰還記念日イベント』(JAXA・相模原市等との共催:フィルムセンター相模原分館での上映会(NFC)及びミニ講演(JAXA)) 回数:2 回、参加者数:380 人

・相模原分館「所蔵フィルム上映とフィルム保存庫の施設ツアー」(JAXA 特別公開との共催事業)
回数:6 回、参加者数:1,001 人

・相模原分館 さがみ風っ子「親子映画鑑賞会」回数:2 回、参加者数:35 人

11 年目を迎えた「こども映画館」では、平成 24 年度も映画上映に施設見学や弁士・伴奏付きの無声映画上映などを組み合わせるスタイルを踏襲しつつ、子供たちが日常のテレビや DVD などでは接する機会を持ちにくい映画遺産に触れる機会を作るとともに、写真画像や手作りの動画等も用いて、分かりやすい解説を行うよう心がけた。

映画フィルム・資料の所蔵作品を活用した教育事業については、「こども映画館」などを開催するなど、着実に教育普及活動の充実に取り組んでいる。特に、フィルムセンター相模原分館におけるJAXAとの連携事業は将来の観客層の育成の視点から今後も継続していくべき事例として評価できる。

	相模原分館では、相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)と締結した文化事業等協力協定により、相模原市内の小・中学生並びに相模原市及び JAXA との共催事業の参加者を対象に、無料で映画鑑賞と保存施設の案内を実施した。映画フィルムの受入・検査・収納までの工程を解説し、多くの参加者から好評を得、映画フィルムの保存についても普及することができた。	
--	--	--

【(小項目)1-1-5】		調査研究の実施状況				【評価】				
【法人の達成すべき目標(計画)の概要】 (5)調査研究成果の反映 各館の役割・任務に従い、展覧会開催のための調査研究、教育普及活動のための調査研究、情報の収集・提供のための調査研究等を、外部資金の活用を含めて計画的に実施し、これらの成果を確実に美術館活動に反映させる。なお、実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携協力を図り、調査研究成果の共有を図る。						A				
						H23	H25	H26	H27	
						A				
						実績報告書等 参照箇所				
						＜実績報告書＞ P21～33 (5)調査研究成果の美術館活動への反映 ①調査研究一覧 ②展覧会カタログの執筆 ③研究紀要の執筆 ④館ニュース等の執筆 ＜実績報告書＞ P62～65 (2)国内外の美術館等との連携 ①シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築 ②我が国の作家, 美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力				
【インプット指標】										
(中期目標期間)		H19	H20	H21	H22	H23	H24			
決算額(百万円)		382	296	322	302	318	324			
従事人員数(人)		61	59	59	57	57	54			
1)決算額は損益計算書 調査研究事業費を計上している。 2)従事人員数は、すべての研究職員数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。										
評価基準			実績				分析・評価			
○ 各館の役割・任務に従い、展覧会開催のための調査研究、教育普及活動のための調査研究、情報の収集・提供のための調査研究等を、外部資金の活用を含めて計画的に実施し、これらの成果を確実に美術			① 調査研究一覧 ア 東京国立近代美術館				展覧会開催のための調査研究等は着実に実施されて、他機関との連携、外部資金の獲得を含め、その達成度は高い水準で成果を上げたと評価する。 特に海外機関との研究水準での交流			
			調査研究テーマ		美術館活動への反映					連携機関
			現代の写真作家に関する調査研究		「写真の現在4 そのときの光、そのさきの風」展を開催しカタログを発行					

館活動に反映させたか。なお、実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携協力を図り、調査研究成果の共有を図ったか。	吉川霊華に関する調査研究	「吉川霊華展 近代にうまれた線の探究者」を開催しカタログを発行		や、国際シンポジウムの開催、また国内外の研究者との連携・協力・ネットワーク構築としての研究会ほかの開催、そしてその成果の報告書出版は、高度な研究・調査における実績となった。各館の研究員の業務が過重負担の領域に達していることはよく認知しているが、研究成果については、法人内でのピアレビューを明確化し、また国内外の主要学会などでの成果発表や査読付き学会誌への投稿なども努力してほしい。
	1950年代の日本の美術に関する調査研究	「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の100年」第2部「実験場1950s」を開催しカタログ及び論文集を発行		
	フランシス・ベーコンに関する調査研究	「フランシス・ベーコン展」を開催しカタログを発行	豊田市美術館	
	鑑賞教育に関する美術館と学校の連携や、学校の授業と美術館での鑑賞の連続性に関する調査研究	学校の授業と関連付けた、小・中学校のギャラリートークの受入れ及び全国指導者研修をはじめとした鑑賞教育研修の実施	東京都図画工作研究会、東京都中学美術研究会	
	美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等）に関する調査研究	セルフガイドの発行、60周年記念「だれでもMOMAT」の実施		
	国立美術館の情報資源を、「想-IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開に関する調査研究	「想-IMAGINE 国立美術館」を http://imagine.artmuseums.go.jp/index.jsp において継続して公開		
	1960-70年代の概念芸術：作品の所在調査とデータ・ベース構築	データ・ベース「1960-70年代の概念芸術」を構築		
	美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発	「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の100年ジュニアガイド」の発行		
	工芸の現代的表現に関する調査研究	企画展「現代の座標—工芸をめぐる11人の思考」	敦井美術館、金沢21世紀美術館、豊田市美術館、資生堂アートフォーラム他	
	近代日本工芸の系譜に関する調査研究	フィレンツェ展「日本のわざと美—近代工芸の精華—」	文化庁、ピッティ宮殿銀器博物館、京都国立近代美術館他	
	明治期に海外流出した近代工芸作品の調査	近代初頭の工芸の展開の検証と作品収集及び展示への活用	フィラデルフィア美術館、ボルチモア美術館、国立自然史博物館、フリーア美術館	
	東アジア地域のデザインにみる交流に関する歴史的研究：中国、台湾、韓国、日本	国際シンポジウム「オリエンタル・モダニティ：東アジアのデザイン史 1920-1990」	埼玉大学、津田塾大学、ロンドン芸術大学	
	工芸館のコレクションと所蔵作品展染織作品の鑑賞にかかる調査研究	『東京国立近代美術館60年史 1952-2012』所蔵作品展「植物図鑑」セルフガイドへの活用	実践女子大学	
	工芸素材と技法の体験と鑑賞教育の推進にかかる調査	所蔵作品展「植物図鑑」ワークショップへの活用	多摩美術大学	

	研究		
	1900-30年代フランスの美術と建築における軸測投影に関する総合的研究	研究論文を刊行するとともに、研究成果の一部は、平成25年度開催予定の展覧会カタログに反映予定	首都大学東京 国立新美術館
	戦後日本に配給された外国映画に関する調査研究	上映会「ロードショーとスクリーン ブームを呼んだ外国映画」、展覧会「ロードショーとスクリーン 外国映画ブームの時代」の開催	一般社団法人外国映画輸入配給協会
	新収蔵作品とその作者や時代背景に関する調査研究	上映会「よみがえる日本映画vol.4[大映篇]—映画保存のための特別事業費による」「よみがえる日本映画vol.5[日活篇]——映画保存のための特別事業費による」の開催	
	現代欧州映画に関する調査研究	上映会「EUフィルムデーズ2012」の開催	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関
	今井正監督に関する調査研究	上映会「生誕百年 映画監督 今井正」の開催	
	無声映画に関する調査研究	上映会「シネマの冒険 闇と音楽 2012」の開催	
	木下恵介監督に関する調査研究	上映会「生誕百年 木下恵介劇場」の開催	
	日活の歴史と作品に関する調査研究	上映会「日活映画の100年 日本映画の100年」、展覧会「日活映画の100年 日本映画の100年」及び教育普及事業「講演と弁士・伴奏付き上映 日活映画の起源」の開催	
	現代日本映画監督に関する調査研究	上映会「自選シリーズ 現代日本の映画監督1 崔洋一」の開催	
	戦後日本に配給された外国映画に関する調査研究	上映会「ロードショーとスクリーン ブームを呼んだ外国映画」及び展覧会「ロードショーとスクリーン 外国映画ブームの時代」の開催	社団法人外国映画輸入配給協会
	日活の歴史と作品に関する調査研究	上映会「日活映画の100年 日本映画の100年」、「よみがえる日本映画vol.5[日活篇]——映画保存のための特別事業費による」、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント「講演と弁士・伴奏付き上映 日活映画の起源」及び展覧会「日活映画の100年 日本映画の100年」の開催	日活株式会社
	ジャンル別の映画ポスターに関する研究	展覧会「西部劇(ウェスタン)の世界 ポスターでみる映画史Part 1」の開催	

	「写し絵」に関する調査研究	写し絵実演の記録撮影の実施及び常設展「NFCコレクションでみる日本映画の歴史」での資料展示	
	「無声映画の音—帝政期ロシアにおける初期映画興行研究」	美術館が所蔵する帝政ロシア映画のデータベース充実化	
イ 京都国立近代美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
	我が国における1920年代前衛美術の先駆者・村山知義に関する調査研究	展覧会「すべての僕が沸騰する—村山知義の宇宙—」を開催	神奈川県立近代美術館、高松市美術館、世田谷美術館
	京都で活躍した版画家・井田照一の新収蔵コレクションに関する研究	展覧会「井田照一の版画」を開催するとともに、図録を「所蔵作品目録Ⅹ」として刊行	
	もうひとつのジャポニズムというべき、ヨーロッパにおける「型紙」に関する調査研究	展覧会「KATAGAMI Style — もうひとつのジャポニズム」を開催	三菱一号館美術館、三重県立美術館、ジャポニズム学会
	我が国の近代洋画の先駆者である高橋由一の調査研究	展覧会「近代洋画の開拓者 高橋由一」を開催	東京藝術大学
	京都を代表する日本画家・山口華楊に関する調査研究	展覧会「山口華楊展」を開催	笠岡市立竹喬美術館
	「日本の映画ポスター芸術」についての調査研究	展覧会「日本の映画ポスター芸術」を開催	東京国立近代美術館フィルムセンター
	開館50周年に当たって、「工芸」を中心とする記念展開催のための調査研究	展覧会「交差する表現」を開催	
	子どもを対象とした鑑賞教育に関する研究実践	「京都国立近代美術館との連携による鑑賞教育の充実に向けて」の研修会を実施	京都市教育委員会、京都市図画工作研究会
	「東西文化の磁場—日本近代建築・デザイン・工芸の脱—、超—領域的作用史の基盤研究」	国書刊行会から、研究の集大成として『東西文化の磁場』を出版(平成25年3月)	
	「装飾とデザインのジャポニズム—西欧におけるその概念形成と実作の研究」	関連展覧会「KATAGAMI Style — もうひとつのジャポニズム」の会期中にシンポジウムを開催し、上記『東西文化の磁場』にも研究成果を盛り込む	日本女子大学
	「イディッシュ語文化圏における芸術活動の研究」	当該科研による研究会(於明治学院大学)における発表を実施	大阪大学
	「1960～70年代の概念芸術：作品の所在調査とデータ・ベ	平成25年度特別展の内容に研究調査を盛り込む予定	東京国立近代美術館

	ース構築」		
		「オーラルヒストリーによる1960年代前衛美術研究の再構築」	50周年記念展「交差する表現」図録に、元館員の聞き取り調査の記録を盛り込んだ
	広島市立大学		
	ウ 国立西洋美術館		
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
	ユベール・ロベール及び18世紀のフランス風景画をめぐる美学的展開に関する調査研究	「ユベール・ロベールー時間の庭」展を開催 同展の図録を刊行、新聞等への掲載、講演会及びシンポジウム等による発表を実施	ヴァランス美術館、静岡県立美術館、福岡市美術館
	ベルリン国立美術館所蔵のイタリアと北方の絵画彫刻の比較研究及び15～17世紀イタリア素描の技法に関する調査研究	「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の400年」を開催 同展の図録を刊行、新聞等への掲載、講演会等による発表を実施	ベルリン国立美術館、九州国立博物館
	国立西洋美術館所蔵のロダンとブールデル作品に関する調査研究	「手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描」展を開催 同展の図録を刊行、新聞等への掲載、ギャラリートーク等を実施	
	ラファエロに関する研究	「ラファエロ」展を開催 同展の図録を刊行、新聞等への掲載、講演会等による発表を実施	フィレンツェ文化財・美術館特別監督局
	旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究	作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等	
	中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究	作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等	
	所蔵版画作品に関する調査研究	作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等	
	美術館教育に関する調査研究	教育普及プログラムを実施 鑑賞教育教材制作、インターンシップ、ボランティア指導、解説等(企画展解説パネル制作等)	
	ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究	教育普及プログラムを実施 文献や図面の調査 本館保存に関する修理検討委員会の実施	
	「国立西洋美術館所蔵作品データベース」に関する研究	国立西洋美術館所蔵作品データベースの構築、整備	

	「西洋近世版画史の一次資料調査」	作品収集, 作品及び文献調査, 所蔵作品展・企画展, 刊行物, 講演発表, 解説等	
	「共和主義におけるチャールズ・ウィルソン・ピールのミュージアムの教育的役割と視覚による教育の成立」	教育普及活動に関する文献調査, 今後の活動に関する基礎資料	
	「ジャン・パオロ・パニーニの風景画に描かれた古代建築と古代彫刻のデータベース構築」	作品及び文献調査, 所蔵作品展・企画展, 刊行物, 解説等	
	「エライザ法を用いた膠着材同定の実現のための検討」	所蔵作品の保存のための基礎資料	
	「ナショナル・ポートレート・ギャラリー その思想と歴史」	美術館の成立に関する文献調査 刊行物	
	「海外における松方コレクション関連資料の収集と公開」	作品及び文献調査, 関連資料のデータベースの構築と整備	
エ 国立国際美術館			
調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関	
所蔵作品についての調査研究	コレクション展		
現代日本美術の動向についての調査研究	「リアル・ジャパネスク:世界の中の日本現代美術」		
柏原えつとむについての調査研究	「＜私＞の解体へ: 柏原えつとむの場合」		
エル・グレコについての調査研究	「エル・グレコ展」	東京都美術館	
宮永愛子についての調査研究	「宮永愛子: なかそらー空中空ー」		
現代の映像表現についての調査研究	「夢か、現か、幻か」		
工藤哲巳に関する調査研究	展覧会の企画構成		
ライアン・ガンダーについての調査研究	所蔵作家の研究		
アンドレアス・グルスキーについての調査研究	展覧会の企画構成	国立新美術館	
高松次郎についての調査研究	展覧会の企画構成		
美術館教育に関する調査研究	美術館, 展覧会運営 (ジュニアセルフガイド作成, びじゅつあー／なつやすみびじゅつあー／びじゅつあ		

			ーすべしやる／ワークショップの企画)		
	アジアの現代美術並びに美術館運営に関する調査研究	美術館, 展覧会運営		アジア次世代キュレーター会議	
	フランス国立クリュニー中世美術館所蔵作品についての調査研究	展覧会の企画構成		フランス国立中世美術館, 国立新美術館	
	工藤哲巳についての調査研究	展覧会の企画構成			
	郭徳俊についての調査研究	展覧会の企画構成			
	フォートリエについての調査研究	展覧会の企画構成		東京ステーションギャラリー, 豊田市美術館	
	フィオナ・タンについての調査研究	展覧会の企画構成		東京都写真美術館	
	高松次郎についての調査研究	展覧会の企画構成			
	ジャコモッティについての調査研究	展覧会の企画構成			
	ミュージアムと地域活性化ー変容するミュージアムの新たな経営課題	美術館, 展覧会運営		東京国立近代美術館	
	美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発	美術館, 展覧会運営 (先生のための鑑賞ミーティングの企画)		同志社大学経済学部	
	オ 国立新美術館				
	調査研究テーマ	美術館活動への反映		連携機関	
	日本の現代美術の動向に関する調査研究	「アーティスト・ファイル2013ー現代の作家たち」展を開催			
	海外の現代美術の動向に関する調査研究	「アーティスト・ファイル2013ー現代の作家たち」展を開催			
	野田裕示の芸術とその展開についての調査研究	「野田裕示 絵画のかたち/絵画の姿」展を開催			
	セザンヌの芸術と生涯に関する調査研究	「セザンヌーパリとプロヴァンス」展を開催		パリ市立プティ・パレ美術館	
	柴田敏雄の芸術とその展開についての調査研究	「与えられた形象ー辰野登恵子/柴田敏雄」展を開催			
	辰野登恵子の芸術とその展開についての調査研究	「与えられた形象ー辰野登恵子/柴田敏雄」展を開催			
	具体美術協会についての調査研究	「『具体』ーニッポンの前衛 18年の軌跡」展を開催			

	関西の戦後前衛美術についての調査研究	『『具体』—ニッポンの前衛 18年の軌跡』展を開催	
	バロック美術についての調査研究	「リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝」展を開催	高知県美術館, 京都市美術館
	ロシアにおける西欧美術の収集と受容についての調査研究	「大エルミタージュ展 世紀の顔・西欧絵画の400年」展を開催	エルミタージュ美術館, 京都市美術館, 名古屋市美術館
	20世紀中葉のロサンゼルスにおけるデザイン潮流についての調査研究	「カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—」展を開催	ロサンゼルス・カウンティ美術館
	美術館の教育普及事業(ワークショップ, 鑑賞ガイド等)に関する調査研究	教育普及事業	
	日本の近・現代美術資料に関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	
	戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開に関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	
	美術情報の収集・提供システムに関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	
	美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	
② 展覧会カタログの執筆			
ア 東京国立近代美術館			
	タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
	作品解説	主任研究員・大谷省吾	「美術にぶるっ! ベストセクション日本近代美術の 100年」
	「静物としての身体、もしくはアンチ・ヒューマニズムについて」	主任研究員・大谷省吾	「美術にぶるっ! ベストセクション日本近代美術の 100年」(論文集『実験場 1950s』)
	章解説	主任研究員・鈴木勝雄	「美術にぶるっ! ベストセクション日本近代美術の 100年」
	「集団の夢—50 年代を貫く歴史的パトス」	主任研究員・鈴木勝雄	「美術にぶるっ! ベストセクション日

			本近代美術の 100 年」(論文集『実験場 1950s』)
	「吉川霊華について」, 章解説, 作品目録, 作品解説, 年譜, 参考文献	主任研究員・鶴見香織	「吉川霊華展 近代にうまれた線の探究者」
	作品解説	主任研究員・鶴見香織	「美術にぶるっ! ベストセレクション日本近代美術の 100 年」
	「フランシス・ベーコンについての断章、いくつか」, 章解説, 作品解説, 年譜, アンソロジー(編集・翻訳)	主任研究員・保坂健二郎	「フランシス・ベーコン展」
	「政治の絵画から絵画の政治へ—中村宏の場合」	研究員・榊田倫広	「美術にぶるっ! ベストセレクション日本近代美術の 100 年」(論文集『実験場 1950s』)
	「うわさのベーコン—日本におけるフランシス・ベーコン受容の歴史のためのノート」, 作品解説	研究員・榊田倫広	「フランシス・ベーコン展」
	「世界に出会う持続的な営為」, 「インタビュー」	主任研究員・増田玲	「写真の現在 4 そのときの光、そのさきの風」
	「時代はめぐる—東京国立近代美術館の 60 年」	副館長・松本透	「美術にぶるっ! ベストセレクション日本近代美術の 100 年」
	東京オリンピック 1964 そのデザインワークにおける「日本的なもの」	主任研究員・木田拓也	「東京オリンピック 1964 デザインプロジェクト」
	工芸家が夢みたアジア: 工芸の「アジア主義」	主任研究員・木田拓也	「越境する日本人: 工芸家が夢みたアジア 1910s-1945」
	現代工芸を担う 11 人	主任研究員・諸山正則	「現代の座標—工芸をめぐる 11 の思考—」

イ 京都国立近代美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
「村山知義と建築、バウハウス」についての一断片	学芸課長・山野英嗣	「すべての僕が沸騰する—村山知義の宇宙—」
『京都国立近代美術館作品目録Ⅹ 井田照一の版画』への若干の脚註	客員研究員・河本信治	「井田照一の版画」
「型」を求めて—ドイツにおける型紙受容とその背景	主任研究員・池田祐子	「KATAGAMI Style — もうひとつのジャポニスム」
作者・工房解説	主任研究員・池田祐子 阿佐美淑子（三菱一号館美術館・主任学芸員） 味岡京子（明治学院大学／日本女子大学・非常勤講師） 今井朋（パリ・ルーブル学院博士課程在籍） 糸 和沙（日本女子大学・学術研究員） 高木陽子（文化学園大学・教授） 馬淵明子（日本女子大学・教授） 鈴木暁世（福岡女子大学専任講師） 山崎菜未（東京藝術大学大学院博士課程在籍）	「KATAGAMI Style — もうひとつのジャポニスム」
山口華楊—人と作品	主任研究員・小倉実子	「山口華楊展」
作品解説	主任研究員・小倉実子 上蘭四郎（笠岡市立竹喬美術館館長）	「山口華楊展」
〈工芸〉表現の一断面から見たその諸相	学芸課長・山野英嗣	「開館 50 周年記念特別展 交差する表現 工芸/デザイン/総合芸術」

ウ 国立西洋美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
「サンドロの友」の憂鬱, 《フローラ》の涙	主任研究員・高梨光正	「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の 400 年」
イタリア素描の技法さまざま	主任研究員・高梨光正	「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の 400 年」

	松方幸次郎と国立西洋美術館の近代美術コレクション	学芸課長・村上博哉	「平成 24 年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館所蔵ヨーロッパの近代美術」
	序ーロダンとブールデル、彫刻に残る手の痕跡	主任研究員・大屋美那	「手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描」
	松方幸次郎収集のロダンとブールデルの彫刻	主任研究員・大屋美那	「手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描」
	ロダンの《エヴァ》について	主任研究員・大屋美那	「手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描」
	ラファエロ像の変遷と偶像化への過程	主任研究員・渡辺晋輔	「ラファエロ」
エ 国立国際美術館			
	タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
	国立国際美術館のコレクション逍遥	館長・山梨俊夫	「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」
	国立国際美術館所蔵作品選作品解説	学芸課長・島敦彦	「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」
	国立国際美術館所蔵作品選作品解説	主任研究員・中井康之	「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」
	国立国際美術館所蔵作品選作品解説	主任研究員・安来正博	「国立国際美術館開館 35 周年記念展 コレクションの誘惑」
	国立国際美術館所蔵作品	主任研究員・中西博之	「国立国際美術館

	選作品解説		開館 35 周年記念 展 コレクションの 誘惑」	
	国立国際美術館所蔵作品 選作品解説	主任研究員・植松由佳	「国立国際美術館 開館 35 周年記念 展 コレクションの 誘惑」	
	国立国際美術館所蔵作品 選作品解説	主任研究員・藤吉祐子	「国立国際美術館 開館 35 周年記念 展 コレクションの 誘惑」	
	国立国際美術館所蔵作品 選作品解説	研究員・橋本梓	「国立国際美術館 開館 35 周年記念 展 コレクションの 誘惑」	
	国立国際美術館所蔵作品 選作品解説	客員研究員・竹内万里子	「国立国際美術館 開館 35 周年記念 展 コレクションの 誘惑」	
	国立国際美術館所蔵作品 選作品解説	客員研究員・森下明彦	「国立国際美術館 開館 35 周年記念 展 コレクションの 誘惑」	
	国立国際美術館所蔵作品 選作品解説	研究補佐員・小野尚子	「国立国際美術館 開館 35 周年記念 展 コレクションの 誘惑」	
	国立国際美術館所蔵作品 選作品解説	研究補佐員・福元崇志	「国立国際美術館 開館 35 周年記念 展 コレクションの 誘惑」	
	国立国際美術館所蔵作品 選作品解説	研究補佐員・宮田有香	「国立国際美術館 開館 35 周年記念 展 コレクションの 誘惑」	
	国立国際美術館所蔵作品 選作品解説	研究補佐員・岡部るい	「国立国際美術館 開館 35 周年記念 展 コレクションの 誘惑」	
	ユニークさを求めて	主任研究員・中西博之	「リアル・ジャパネス ク:世界の中の日 本現代美術」	

	出品作家 9 名の解説	主任研究員・中西博之	「リアル・ジャパネスク：世界の中の日本現代美術」
	＜私＞の解体へ：柏原えつとむの場合	研究員・橋本梓	「＜私＞の解体へ：柏原えつとむの場合」
	年表一般事項	主任研究員・安来正博	「エル・グレコ展」
	始まりはあって終わりはないー宮永愛子の芸術ー	主任研究員・中井康之	「宮永愛子：なかそらー空中空ー」
	「夢か、現か、幻かーWhat We See」	主任研究員・植松由佳	「夢か、現か、幻か」
	オ 国立新美術館		
	タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
	「マティスとロシアーロシア・アヴァンギャルドにおける「東方」」	主任研究員・本橋弥生	「大エルミタージュ美術館展 世紀の顔・西欧絵画の 400 年」
	「『具体』ー近代精神の理想郷」, 章解説, 年譜, 作家略歴	主任研究員・平井章一	「『具体』ーニッポンの前衛 18 年の軌跡」
	「大阪万博というフィナーレへ向かって」, 「主要参考文献」	研究員・山田由佳子	「『具体』ーニッポンの前衛 18 年の軌跡」
	「与えられた形象――序論」	学芸課長・南雄介	「与えられた形象ー辰野登恵子/柴田敏雄」
	「辰野登恵子 その展開についての記述の試み」	学芸課長・南雄介	「与えられた形象ー辰野登恵子/柴田敏雄」
	「柴田敏雄の写真」	主任研究員・宮島綾子	「与えられた形象ー辰野登恵子/柴田敏雄」
	「デキウス・ムス連作ールーベンス芸術マニフェステーション」	主任研究員・宮島綾子	「リヒテンシュタイン華麗なる侯爵家の秘宝」
	「利部志穂の作品について」	学芸課長・南雄介	「アーティスト・ファイル 2013ー現代の作家たち」
	「ダレン・アーモンド」	主任研究員・西野華子	「アーティスト・ファ

		イル 2013—現代の作家たち」
「デヨン・ヨンドウ」	主任研究員・西野華子	「アーティスト・ファイル 2013—現代の作家たち」
「東亭順」	主任研究員・宮島綾子	「アーティスト・ファイル 2013—現代の作家たち」
「ナリニ・マラニ」	主任研究員・本橋弥生	「アーティスト・ファイル 2013—現代の作家たち」
「志賀理江子：写真における身体とイメージ」	主任研究員・長屋光枝	「アーティスト・ファイル 2013—現代の作家たち」
「《返本還元》から《竜神》へ—國安孝昌の仕事」	副館長・福永治	「アーティスト・ファイル 2013—現代の作家たち」
「中澤英明の絵画」	副館長・福永治	「アーティスト・ファイル 2013—現代の作家たち」
「『パシフィカ』と『ジャパニーズ・モダン』—1950 年代カリフォルニアと日本における日本調のモダン・デザイン」	主任研究員・本橋弥生	「カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—」

③ 研究紀要の執筆

ア 東京国立近代美術館（本館・工芸館）

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
「山田正亮 life and work 制作ノートを中心に」	企画課長・中林和雄	『東京国立近代美術館研究紀要』第 17 号	2013 年 3 月 31 日
松田権六「優品之調査」	主任研究員・北村仁美	『東京国立近代美術館研究紀要』第 17 号	2013 年 3 月 31 日
ミュージアム・オブ・アーツ・アンド・デザイン 1956-2008: 工芸／CRAFT の行方	主任研究員・木田拓也	『東京国立近代美術館研究紀要』第 17 号	2013 年 3 月 31 日

(フィルムセンター)

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
関東大震災記録映画群の同定と分類——NFC 所蔵フィルムを中心として	研究員・大澤 浄	『東京国立近代美術館 研究紀要』第 17 号	2013 年 3 月 31 日
『土』から『家』へ——その政治的権能の変遷に関する考察——	客員研究員・浅利 浩之	『東京国立近代美術館 研究紀要』第 17 号	2013 年 3 月 31 日
フィルムセンター所蔵の小型映画コレクション 9.5mm フィルム調査の覚書	技能補佐員・郷田 真理子	『東京国立近代美術館 研究紀要』第 17 号	2013 年 3 月 31 日

イ 京都国立近代美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
キュレトリアル・スタディズ 05 ニュー・バウハウスの写真家たち はじめに	研究員・牧口 千夏	京都国立近代美術館 研究論集 CROSS SECTIONS —VOL.5	2013 年 3 月 20 日

ウ 国立西洋美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
作品調査報告—ルドヴィーコ・カラッチ《ダリウスの家族》	主任研究員・高梨 光正	国立西洋美術館 研究紀要 No.17	2013 年 3 月 31 日
ジャン・パオロ・パニーニの風景画に描かれた古代彫刻の同定	研究補佐員・飯塚 隆	国立西洋美術館 研究紀要 No.17	2013 年 3 月 31 日
古代末期におけるキリスト教と異教の併存の一例—イタリア国ソンマ・ヴェスヴィア—ナ在ローマ時代遺跡	リサーチフェロー・向井 朋生	国立西洋美術館 研究紀要 No.17	2013 年 3 月 31 日

④ 館ニュース等の執筆

ア 東京国立近代美術館(本館・工芸館)

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
「ジャクソン・ポロック展におけるく表現＋鑑賞」連続授	主任研究員・一條 彰子	『現代の眼』593 号	2012 年 4 月

	業のとりくみ」				
	「本館の教育普及事業」「独立行政法人国立美術館としての教育普及事業―指導者研修とアートカード」	主任研究員・一條彰子	『東京国立近代美術館 60 年史』	2012 年 12 月	
	「開館六〇周年記念プログラム「だれでも MOMAT」」	主任研究員・一條彰子	『現代の眼』598 号	2013 年 2 月	
	「須田国太郎が《書斎》の影に込めた想いとは？」	主任研究員・大谷省吾	『現代の眼』593 号	2012 年 4 月	
	「12 月 1 日(土)開館記念日の催しのご案内」	主任研究員・大谷省吾	『現代の眼』596 号	2012 年 10 月	
	「この六〇年に、何が「名品」として選ばれてきたか」	主任研究員・大谷省吾	『現代の眼』597 号	2012 年 12 月	
	各展覧会概説	主任研究員・大谷省吾	『東京国立近代美術館 60 年史』	2012 年 12 月	
	「作品研究 影と遠近法―荒川修作と高松次郎」	美術課長・蔵屋美香	『現代の眼』594 号	2012 年 6 月	
	「平成 23 年度の新収蔵作品(美術作品)について」	美術課長・蔵屋美香	『現代の眼』596 号	2012 年 10 月	
	「整理と壁面―所蔵品ギャラリーリニューアルで、建築家と美術館が考えたこと」	美術課長・蔵屋美香	『現代の眼』597 号	2012 年 12 月	
	「本館のコレクションと所蔵作品展」「所蔵作品展における戦争画の展示」	美術課長・蔵屋美香	『東京国立近代美術館 60 年史』	2012 年 12 月	
	「60 周年記念企画―夏期休館中の催しについて」	研究補佐員・柴原聡子	『現代の眼』594 号	2012 年 6 月	
	展覧会予告「美術にぶるっ！ベストセレクション日本近代美術の 100 年」	主任研究員・鈴木勝雄	『現代の眼』595 号	2012 年 8 月	
	「[所蔵作品展特集] 大下藤次郎から中西利雄へ―揺さぶられる水彩画」	主任研究員・都築千重子	『現代の眼』593 号	2012 年 4 月	
	「コレクションの画像の保存と活用をめぐる―デジタル完全移行を見据えての共同研究プロジェクト始動」	主任研究員・都築千重子	『現代の眼』595 号	2012 年 8 月	
	展覧会予告「吉川霊華展 近代にうまれた線の探究者」	主任研究員・鶴見香織	『現代の眼』593 号	2012 年 4 月	
	「吉川霊華にまつわることごと：市田儀一郎氏に聞く」	主任研究員・鶴見香織	『現代の眼』594 号	2012 年 6 月	
	「本館の企画展」	企画課長・中林和雄	『東京国立近代	2012 年 12 月	

			美術館 60 年 史』		
	「60 周年記念事業をふりかえ って」	企画課長・中林和雄	『現代の眼』598 号	2013 年 2 月	
	「作品研究 川合玉堂《小松 内府図》について」	主任研究員・中村麗 子	『現代の眼』598 号	2013 年 2 月	
	「近代美術館における展示と 建築」「建築展の変遷とその 問題点」「『オルタナティヴ・ス ペース』としてのギャラリー4」	主任研究員・保坂健 二郎	『東京国立近代 美術館 60 年 史』	2012 年 12 月	
	展覧会予告「フランシス・ペー コン」	主任研究員・保坂健 二郎	『現代の眼』597 号	2012 年 12 月	
	「六〇周年記念特別展『美術 にぶるっ！ベストセレクション 日本近代美術の 100 年』に よせて」	研究員・榎田倫広	『現代の眼』596 号	2012 年 10 月	
	展覧会予告「写真の現在 4 そのときの光、そのさきの風」 展	主任研究員・増田玲	『現代の眼』593 号	2012 年 4 月	
	「平成 23 年度の新収蔵作品 (美術作品)について」	主任研究員・増田玲	『現代の眼』596 号	2012 年 10 月	
	「本館の写真コレクション」	主任研究員・増田玲	『東京国立近代 美術館 60 年 史』	2012 年 12 月	
	「東京国立近代美術館の 60 年」「カタログの学術性—『マ チス展』のことなど」	副館長・松本透	『東京国立近代 美術館 60 年 史』	2012 年 12 月	
	「東京国立近代美術館 60 周 年記念シンポジウム 近代美 術館の誕生—前史から未来 へ」	副館長・松本透	『現代の眼』598 号	2013 年 2 月	
	「本館の情報資料事業」	主任研究員・水谷長 志	『東京国立近代 美術館 60 年 史』	2012 年 12 月	
	「二冊の六〇周年記念刊行 物—『60 年史』と『美術家た ちの証言—東京国立近代美 術館ニュース『現代の眼』選 集』について」	主任研究員・水谷長 志	『現代の眼』597 号	2012 年 12 月	
	「60 周年記念企画—夏期休 館中の催しについて」	主任研究員・三輪健 仁	『現代の眼』594 号	2012 年 6 月	
	「「ビデオを待ちながら:映 像、60 年代から今日へ」展に	主任研究員・三輪健 仁	『東京国立近代 美術館 60 年	2012 年 12 月	

	について」		史』		
	「寿ぎ」のうつわ展解題	主任研究員・北村仁美	『現代の眼』598号	2013年2月1日	
	工芸館の教育普及事業	主任研究員・今井陽子	『東京国立近代美術館 60 年史』	2012年12月1日	
	展覧会予告「所蔵作品展 こども工芸館／おとな工芸館 植物図鑑」	主任研究員・今井陽子	『現代の眼』594号	2012年6月1日	
	おとな工芸館「植物図鑑」	主任研究員・今井陽子	植物図鑑展セルフガイド（児童対象）	2012年6月	
	こども工芸館「植物図鑑」	主任研究員・今井陽子	植物図鑑展セルフガイド（一般対象）	2012年6月	
	展覧会予告「現代の座標—工芸をめぐる11の思考—」	主任研究員・諸山正則	『現代の眼』595号	2012年8月1日	
	平成 23 年度の新収蔵作品（工芸作品）について	工芸課長・唐澤昌宏	『現代の眼』594号	2012年6月1日	
	工芸館の企画展	工芸課長・唐澤昌宏	『東京国立近代美術館 60 年史』	2012年12月1日	
	工芸館のデザインコレクション	主任研究員・木田拓也	『東京国立近代美術館 60 年史』	2012年12月1日	
	(フィルムセンター)				
	タイトル	執筆者 職名・氏名	掲載誌名	発行年月日	
	「日本映画が素晴らしい」という世界の声を聞こう	フィルムセンター主幹・岡島尚志	NFC ニューズレター第 105 号	2012年10月1日	
	映画保存の現在と未来（対談）	主幹・岡島尚志，米議会図書館映画放送録音物部国立視聴覚保管センター（パッカード・キャンパス）チーフ	NFC ニューズレター第 105 号	2012年10月1日	
	日活映画——“世紀”の発見	主幹・岡島尚志	NFC ニューズレター第 106 号	2012年12月1日	
	映画監督・崔洋一の時代と個性	主幹・岡島尚志	NFC ニューズレター第 107 号	2013年2月1日	
	よみがえる大映イーストマン・カラー第一作	主任研究員・榎木章（執筆者名・とちぎあ	NFC ニューズレター第 102 号	2012年4月1日	

		きら)			
	フィルムセンター相模原分館・映画保存棟Ⅱについて	主任研究員・棚木章 (執筆者名・とちぎあきら)	NFC ニューズレター第 103 号	2012 年 6 月 1 日	
	『幕末太陽傳』デジタル修復版をめぐる断想	主任研究員・棚木章 (執筆者名・とちぎあきら)	NFC ニューズレター第 105 号	2012 年 10 月 1 日	
	シネマテーク・スイスにおける「マックス・ランデー国際シンポジウム」報告	研究員・大傍正規	NFC ニューズレター第 106 号	2012 年 12 月 1 日	
	映画というのは自己完結するものではない(上) 崔洋一監督インタビュー	研究員・大澤浄[聞き手・構成]	NFC ニューズレター第 107 号	2013 年 2 月 1 日	
	戦後外国映画―《通俗》のよろこび	主任研究員・岡田秀則	NFC ニューズレター第 102 号	2012 年 4 月 1 日	
	101 年目の活動写真	主任研究員・岡田秀則	NFC ニューズレター第 104 号	2012 年 8 月 1 日	
	FIAF 北京会議報告 映画保存が創る新たなアニメーション史	主任研究員・岡田秀則	NFC ニューズレター第 104 号	2012 年 8 月 1 日	
	イ 国立西洋美術館				
	タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日	
	ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の 400 年	主任研究員・高梨光正	ZEPHYROS 第 51 号	2012 年 5 月 20 日	
	報告 文化財レスキュー事業:東北の美術品・文化財を守る	学芸課長・村上博哉	ZEPHYROS 第 51 号	2012 年 5 月 20 日	
	小企画展「クラインマイスター:16 世紀前半ドイツにおける小画面の版画家たち」	研究員・中田明日佳	ZEPHYROS 第 51 号	2012 年 5 月 20 日	
	報告 2011 年度収蔵作品について	主任研究員・渡辺晋輔	ZEPHYROS 第 52 号	2012 年 8 月 20 日	
	寄附報告と購入作品 ブラングイン作《共楽美術館構想俯瞰図, 東京》 ー平成 23 年度寄附により購入した作品	主任研究員・大屋美那	ZEPHYROS 第 52 号	2012 年 8 月 20 日	
	報告 美術館で奉仕活動	主任研究員・寺島洋子	ZEPHYROS 第 52 号	2012 年 8 月 20 日	
	手の痕跡 国立西洋美術館	主任研究員・大屋美	ZEPHYROS 第	2012 年 11 月 20 日	

	所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描	那	53号	
	『手の痕跡』展と同時開催！「Fun with Collection2012 彫刻の魅力を探る」「セイビまるとお楽しみ！ FUN DAY 2012」	主任研究員・横山佐紀	ZEPHYROS 第53号	2012年11月20日
	マックス・クリンガーの連作版画－尖筆による夢のシークエンス	研究員・新藤淳	ZEPHYROS 第53号	2012年11月20日
	企画展「ラファエロ」	主任研究員・渡辺晋輔	ZEPHYROS 第54号	2013年2月20日
ウ 国立国際美術館				
	タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
	国立国際美術館の写真コレクションについて	客員研究員・竹内万里子	国立国際美術館ニュース 第189号	2012年4月1日
	報告：「Alternating Currents: Japanese Art after March 2011」	研究員・橋本梓	国立国際美術館ニュース 第189号	2012年4月1日
	工藤哲巳入門(五)「インポ哲学」の誕生	学芸課長・島敦彦	国立国際美術館ニュース 第189号	2012年4月1日
	[表紙] 館蔵品紹介	主任研究員・中井康之	国立国際美術館ニュース 第190号	2012年6月1日
	報告 ワークショップ「顔が顔に会うための顔をつくる」	主任研究員・藤吉祐子	国立国際美術館ニュース 第190号	2012年6月1日
	工藤哲巳入門(六)「インポ哲学」を引っ提げ、いざパリへ	学芸課長・島敦彦	国立国際美術館ニュース 第190号	2012年6月1日
	工藤哲巳入門(七) 勇名を轟かせた「ハプニング男」の六〇年代	学芸課長・島敦彦	国立国際美術館ニュース 第191号	2012年8月1日
	シンポジウム「写真の誘惑－視線の行方」を振り返って	客員研究員・竹内万里子	国立国際美術館ニュース 第192号	2012年10月1日
	工藤哲巳入門(八) 箱の中の「あなたの肖像」	学芸課長・島敦彦	国立国際美術館ニュース 第192号	2012年10月1日

	THIS IS A FILM ― 柏原えつとむの映像作品―	客員研究員・森下明彦	国立国際美術館ニュース 第193号	2012年12月1日
	工藤哲巳入門(九) 消滅する肉体―変異する人類	学芸課長・島敦彦	国立国際美術館ニュース 第193号	2012年12月1日
	工藤哲巳入門(十)「脱皮」の記念品・郷愁病用・あなたの居間に	学芸課長・島敦彦	国立国際美術館ニュース 第194号	2013年2月1日
	写真と記憶	主任研究員・植松由佳	「国立国際美術館開館35周年記念シンポジウム『写真の誘惑―視線の行方』記録集」	2012年12月25日
	エ 国立新美術館			
	タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
	『『具体』―ニッポンの前衛18年の軌跡』展関連シンポジウム『『具体』再評価の過去と現在』抄録	研究員・山田由佳子	『国立新美術館ニュース』No.23	2012年8月31日
	「国立新美術館の情報検索サービスの展開―展覧会情報と書誌情報のリンク」	主任研究員・室屋泰三	『国立新美術館ニュース』No.23	2012年8月31日
	「マイ・フェイヴァリッツ 私の好きな作品 辰野登恵子×柴田敏雄」	学芸課長・南雄介	『国立新美術館ニュース』No.24	2012年11月30日
	南北の往復から見るセザンヌ―展覧会史における「セザンヌ―パリとプロヴァンス」展の意義	アソシエイトフェロー・工藤弘二	シンポジウム「セザンヌ―パリとプロヴァンス」展から見る今日のセザンヌ 記録集	2013年3月15日
	国内外の美術館等との連携			
	① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築			
	ア 東京国立近代美術館			
	(本館・工芸館)			
	セミナー・シンポジウム名	東京国立近代美術館 60周年記念シンポジウム 近代美術館の誕生	開催日	平成24年12月1日

	—前史から未来へ		
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	117 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	木下直之(東京大学教授), 五十殿利治(筑波大学教授), 高橋裕次(東京国立博物館学芸企画部博物館情報課長), 水沢勉(神奈川県立近代美術館長), 島田紀夫(ブリヂストン美術館長), 松本透(東京国立近代美術館副館長), 蔵屋美香(東京国立近代美術館美術課長)		
セミナー・シンポジウム名	戦後日本美術の新たな語り口を探る—ニューヨークと東京、二つの近代美術館の展覧会を通して見えてくるもの	開催日	平成 24 年 12 月 23 日
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	145 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ドリュン・チョン(ニューヨーク近代美術館アソシエイト・キュレーター), ガブリエル・リッター(ダラス美術館アシスタント・キュレーター), 林道郎(上智大学国際教養学部教授), 前山裕司(埼玉県立近代美術館主席学芸主幹), 鈴木勝雄(東京国立近代美術館主任研究員)		
セミナー・シンポジウム名	オリエンタル・モダニティ: 東アジアのデザイン史 1920-1990	開催日	平成 24 年 7 月 15 日
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	90 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	樋田豊郎(秋田公立美術短期大学学長), 菊池裕子(ロンドン芸術大学教授), リン・ウェッシー(ロンドン芸術大学准教授), リー・ユナ(ブライトン大学准教授), 菅靖子(津田塾大学准教授), 木田拓也(東京国立近代美術館主任研究員), 井口壽乃(埼玉大学教授)		

(フィルムセンター)

セミナー・シンポジウム名	世界のアニメーション	開催日	平成 24 年 4 月 23 日, 24 日
場所	中国電影資料館劇場(中国・北京)	聴講者数	150 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	フィルムセンターから出席した岡島尚志(フィルムセンター主幹), 棚本章(フィルムセンター主任研究員), 岡田秀則(フィルムセンター主任研究員)を含む 11 の国・地域から参加した 26 名の講師・パネリスト		

イ 京都国立近代美術館

セミナー・シンポジウム名	シンポジウム「近代日本画と工芸 1868-1945」	開催日	平成 25 年 2 月 26 日
場所	ローマ日本文化会館	聴講者数	約 50 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	尾崎正明(館長), 松原龍一(主任研究員)		

ウ 国立西洋美術館

セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム「時の作用と美	開催日	平成 24 年 4 月 14 日
--------------	-----------------	-----	------------------

		ウム名	学」		
		場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	85 人
		講師・パネリスト等の氏名(職名)	高階秀爾(大原美術館館長), 小佐野重利(東京大学教授), バルテレミ・ジョベール(パリ第 4 大学教授), ギョーム・ファルー(ルーヴル美術館キュレーター), 三浦篤(東京大学教授), 阿部成樹(中央大学教授), 陳岡めぐみ(国立西洋美術館主任研究員)		
		セミナー・シンポジウム名	彩色文化遺産の有機物質の分析に関するシンポジウム	開催日	平成 25 年 1 月 7 日
		場所	東京文化財研究所 地下会議室	聴講者数	70 人
		講師・パネリスト等の氏名(職名)	谷口陽子(筑波大学・助教), Joy Mazurek(Getty保存研究所・Assistant Scientist), 島津美子(東京文化財研究所・特別研究員), 中澤隆(奈良女子大学・教授), 高嶋美穂(国立西洋美術館・研究補佐員)		

エ 国立国際美術館

		セミナー・シンポジウム名	歴代館長によるシンポジウム「国立国際美術館のこれまでとこれから」	開催日	平成 24 年 4 月 28 日
		場所	国立国際美術館地下 1 階講堂	聴講者数	68 人
		講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会:山梨 俊夫(国立国際美術館館長) パネリスト:木村重信(美術評論家・国立国際美術館元館長), 宮島久雄(高松市美術館館長・国立国際美術館元館長), 建畠哲(京都市立芸術大学学長・埼玉県立近代美術館館長・国立国際美術館前館長)		
		セミナー・シンポジウム名	シンポジウム「写真の誘惑ー視線の行方」	開催日	平成 24 年 5 月 12 日・13 日
		場所	国立国際美術館地下 1 階講堂	聴講者数	758 人
		講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会:植松由佳(国立国際美術館主任研究員), 竹内万里子(国立国際美術館客員研究員) パネリスト:青山勝(大阪成蹊大学芸術学部准教授), 五十嵐太郎(東北大学教授), 笠原美智子(東京都写真美術館事業企画課長), 加治屋健司(広島市立大学芸術学部准教授), 佐藤守弘(京都精華大学デザイン学部准教授), 島敦彦(国立国際美術館学芸課長), 管啓次郎(比較文学者, 詩人), 鈴木理策(写真家), 鷹野隆大(写真家), 畠山直哉(写真家), ブブ・ド・ラ・マドレーヌ(現代美術作家), 前田恭二(読売新聞文化部記者), 森村泰昌(美術家), ヨコミゾマコト(建築家), 米田知子(写真家)		

オ 国立新美術館

		セミナー・シンポジウム名	「『セザンヌーパリとプロヴァンス』展から見る今日のセザンヌ」	開催日	平成 24 年 5 月 26 日
		場所	国立新美術館	聴講者数	188 人
		講師・パネリスト等の氏名(職名)	永井隆則(京都工芸繊維大学准教授), 工藤弘二(国立新美術館アソシエイト・フェロー), 三浦篤(東京大学教授), 新畑泰秀(石橋財団ブリヂストン美術		

	館学芸課長)		
セミナー・シンポジウム名	「現代ロシアとエルミタージュ美術館」	開催日	平成 24 年 6 月 3 日
場所	国立新美術館	聴講者数	166 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	沼野充義(東京大学教授, ロシア・東欧文学者), 鴻野わか菜(千葉大学准教授, ロシア文学者), 青木保(当館館長)		
セミナー・シンポジウム名	「『具体』再評価の過去と現在」	開催日	平成 24 年 7 月 14 日
場所	国立新美術館	聴講者数	105 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	河崎晃一(インディペンデント・キュレーター), ミン・ティアンポ(カールトン大学准教授, グッゲンハイム美術館「具体」展共同キュレーター), マテイヤス・フィッサー(ゼロ・ファンデーション設立ディレクター), 萬木康博(美術評論家), 平井章一(当館学芸課主任研究員)		

②我が国の作家, 美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

ア 東京国立近代美術館

本館では, 「Yayoi Kusama」(2012 年 2 月 1 日-5 月 20 日, テートモダン, ロンドン/6 月 20 日-9 月 20 日 ホイットニー美術館, ニューヨーク), 「William Klein + Daido Moriyama: New York + Tokyo + Film + Photo」(2012 年 10 月 10 日-2013 年 1 月 13 日, テートモダン, ロンドン), 「Drawing Surrealism, 1915-1945」(2012 年 10 月 21 日-2013 年 1 月 6 日, ロサンゼルス・カウンティ美術館/2013 年 1 月 25 日-5 月 12 日, モルガン図書館・美術館, ニューヨーク), 以上の海外展について, 日本人作家の作品を貸与し, その開催に協力した。

また, 広くアジアの近代美術を収集・展示する計画のシンガポール新美術館(2015 年開館予定)と, 日本近代美術作品の展示について, そのコンセプト, 貸与の実現等に向け, 協議を行った。

さらに, 「国吉康男展」開催準備のため, (公財)直島福武美術館財団, Smithsonian American Art Museum の作品調査に協力した。

工芸館では, 文化庁, イタリア・フィレンツェ国立美術監督局とともに主催したピッツィ宮殿「白の間」における「日本のわざと美—近現代工芸の精華—」展開催に当たり, 同宮殿内の銀器博物館等と連携・協力を行った。

フィルムセンターでは, チネテカ・デル・コムネ・ディ・ボローニャ(FIAF 加盟機関)との共催による第 26 回チネマ・リトロバート映画祭・特集企画「日本が声を上げる! 陽が昇る地から来た最初のトーキー映画」において, レコードトーキーや活弁トーキーなどのユニークなサウンド形式を持つ作品を含む 13 本の映画フィルム(うち 1 本は, 外国映画に日本語による活弁を付したフィルム)を, すべて英語字幕付きで上映し, 映画の音に挑んだ日本の映画

	監督や技術者による多彩な試みについて、映画祭に参加した世界各国の研究者やアーティストの認識を高めることができた。本番組の一部はその後、ニューヨーク近代美術館（FIAF 加盟機関）からの貸与申請を受け、同館が主催する第 10 回国際映画保存映画祭にて上映が行われた。 また、平成 23 年度、共催によりアメリカ及びフランスの 3 会場で実施した『『日活百年』海外巡回上映会』について、平成 24 年度はオーストラリア国立映画音響アーカイブ（FIAF 加盟機関）をはじめとして 8 カ国、10 会場に対し、計 38 本の映画フィルムを貸与することにより、上映会への協力を行った。 イ 京都国立近代美術館 当館と国際交流基金との共催で、ローマ国立近代美術館において「近代日本画と工芸の流れ 1868-1945」展を開催し（2013 年 2 月 26 日から 5 月 5 日まで）、当館の尾崎正明館長及び松原龍一主任研究員が、企画及び作品選定を担当した。これは当館をはじめ国内の美術館ほかが所蔵する我が国の日本画・工芸作品計 170 点によって構成されたものであり、我が国の近代美術作品を海外で紹介する貴重な機会となった。また、開会初日には、上記の国際シンポジウムも開催した（パネラーは日本から 3 名、イタリアから 2 名）。 ウ 国立国際美術館 平成 25 年度開催予定の「あなたの肖像－工藤哲巳回顧展」の準備のため、ニューヨーク近代美術館で開催した企画展「TOKYO 1955-1970－A NEW AVANT」の調査を行い、成果を共有し連携協力した。	
--	---	--

【(小項目)1-1-6】観覧環境の提供		【評価】				
【法人の達成すべき目標(計画)の概要】 (6) 快適な観覧環境の提供 ①-1 高齢者、障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な鑑賞環境の形成のために展示方法・外国語表示・動線等の改善、施設整備の計画的な実施に取り組む。 ①-2 展示や解説パネルを工夫するとともに、音声ガイド等を導入するなど、鑑賞しやすさ、理解のしやすさに取り組む。 ② 入館者を対象とする満足度調査を定期的の実施し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善に取り組む。 ③ 入館者にとって快適な空間となるよう、利用者ニーズを踏まえてミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。		A				
		H23		H26	H27	
		A				
		実績報告書等 参照箇所				
		＜実績報告書＞ P33～37 (6) 快適な観覧環境の提供 ① 高齢者、身体障害者、外国人等への対応 ② 展示、解説の工夫と音声ガイドの導入 ③ 入場料金、開館時間等の弾力化 ④ キャンパスメンバーズ制度の実施 ⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実				
【インプット指標】						
(中期目標期間)	H19	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(百万円)	1,900	1,861	1,714	1,815	1,698	1,947
従事人員数(人)	75	70	71	70	69	64
1) 決算額は損益計算書 展覧事業費を計上している。(本項目は展覧事業費の一部であり、個別に計上できないため、展覧事業費全額を計上している。) 2) 従事人員数は、すべての研究職員数及び事業担当事務職員を計上している。その際、役員及び事業担当を除く事務職員は勘案していない。						
評価基準		実績			分析・評価	
○ 高齢者、身体障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な鑑賞環境の形成のために展示方法・外国語表示・動線等の改善、施設整備の計画的な実施に取り組んだか。		① 高齢者、身体障害者、外国人等への対応 平成 23 年度に引き続き、各館とも次のような対応を実施している。 ・多目的(身体障害者用)トイレ、エレベータ(エスカレーター)、スロープ(手摺り)の設置 ・車椅子、ベビーカー(国立西洋美術館は除く)の貸出 ・身体障害者用駐車スペース(国立国際美術館は除く)の提供 ・自動体外式除細動器(AED)の設置 ・盲導犬、介助犬の同伴による観覧 ・多言語による館案内表示 ・多言語による館内リーフレット、ミュージアムカレンダー等の配布 ・所蔵作品展(常設展)、企画展(一部を除く)において、作品リスト(日・英)の配布			高齢者、身体障害者、外国人等への対応は、適切になされており、特に筆談ボードの設置は評価できる。	

○ 展示や解説パネルを工夫するとともに、音声ガイド等を導入するなど、鑑賞しやすさ、理解のしやすさに取り組んだか。	・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置 ・オストメイト(人工肛門、人工膀胱保有者)用の設備を設置 ・キャプションに英語表記を併記 ・英語版ホームページの公開 ・東京国立近代美術館(フィルムセンターは平成 23 年 12 月より)、国立西洋美術館においては、東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し、外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引 ・東京国立近代美術館本館では、所蔵作品展「MOMAT コレクション」英語版音声ガイドを導入 ・国立西洋美術館では、インフォメーションカウンターに筆談ボードを設置 ・国立国際美術館では、貸出用拡大鏡 16 個を設置するとともに、授乳室及び安全仕様のキッズルームを地下1階に設置し、幼児向け絵本 400 冊を常設 ・国立新美術館では、授乳室(地下1階)の設置、点字ブロック(正門から正面入口、地下鉄口から西入口(インターホンを設置))及び点字表示(エレベータ内他)の設置、補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置(専用受信機10台)、ロビー等の館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示、託児サービスの実施並びに文字を大きくし、見易やすくしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布とともに、平成24年度は新たに館内の各インフォメーションに筆談ボードを設置 ② 展示、解説の工夫と音声ガイドの導入 各館とも次のような対応を実施している。 ・共催展における音声ガイドの導入 ・館内リーフレット、フロアプラン、ミュージアムカレンダー等の配布 その他、東京国立近代美術館本館においては、所蔵作品展で「重要文化財」のキャプション表示やホームページに重要文化財作品の解説ページを引き続き設置するとともに、所蔵作品展のための英語版音声ガイドの貸出しを行った。 平成 24 年度に行った所蔵品ギャラリーのリニューアルでは、2～4 階の順路を整理した上で、館内サインを拡大・多言語化し、高齢者、身体障害者及び外国人等を含むすべての来館者がスムーズに観覧できるようにした。また、和英ともにホームページを大幅に拡充した。 工芸館では、キャプションサイズの拡大、作品名のふりがな及び素材・技法を記載した。 フィルムセンターでは、常設展「NFC コレクションでみる 日本映画の歴史」において、児童・生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」を配布した。 国立西洋美術館においては、企画展において、児童・生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布したほか、国立西洋美術館本館の建築探検マップ(日・英・仏・韓・中国語版)や館広	展示、解説パネル、音声ガイドは適切に措置されており、特に、所蔵品に関する英語版の音声ガイドの運用は、重要文化財のキャプションとともに充実しており、評価できる。 今後は、教育普及の一環として、小電力型ラジオマイク・システムなど新しい展示解説機器等の導入・運用が求められる。
---	--	---

○ 入館者を対象とする満足度調査を定期的に実施し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善に取り組んだか。	報(国立西洋美術館ニュース Zephyros の最新号及びバックナンバー)の配布及びホームページ掲載を行うとともに、常設展ガイドとして利用できる iPhone/iPod Touch・Android 携帯端末専用アプリ「Touch the Museum」の無料配信を行った。また、企画展の解説パネルを、見易やすいように拡大文字の冊子に加工し、展示室内に配置したほか、版画展開催の際には、版画の技法を説明した小冊子を展示室内に配置した。 国立国際美術館においては、作品紹介キャプションをより見やすくするよう努めた。 国立新美術館においては、「「具体」—ニッポンの前衛 18 年の軌跡」鑑賞ガイド『アートのとびら 国立新美術館ガイドブック vol.7』(日英併記)、「アーティスト・ファイル 2013—現代の作家たち」鑑賞ツール「ちいさなアーティスト・ファイル 2013」(日英併記)及び「カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—」鑑賞ガイド「国立新美術館ガイドブック ハロー！カリフォルニア・デザイン」を配布した。 ③ 入場料金、開館時間等の弾力化 入館者の展覧会に対しての観覧料や開館時間について、展覧会毎に実施しているアンケート調査の中で満足度調査を実施した。アンケート結果を踏まえて、入場料金及び開館時間の弾力化に取り組んだ。 各館共通の取組については以下のとおりである。 文化の日(11 月 3 日、国立新美術館を除く)及び国際博物館の日(5 月 18 日、東京国立近代美術館フィルムセンターの上映会を除く。)の所蔵作品展(常設展)の観覧料を無料にするとともに、夜間開館の実施、年始やゴールデンウィーク等休館日の臨時開館を実施した。また、所蔵作品展及び自主企画展の高校生以下及び 18 歳未満の者の観覧料の無料化についての周知に努めた。 その他平成 24 年度の各館の取組は以下のとおりである。 (ア)東京国立近代美術館 ・開館 60 周年を記念して、誕生日当日の来館者(誕生日を証明できるものを提示)に対して所蔵作品展及び企画展すべての無料観覧を実施 - 本館:平成 24 年 2 月 3 日～平成 25 年 1 月 14 日 - 工芸館:平成 24 年 2 月 7 日～平成 25 年 1 月 14 日 - フィルムセンター:平成 24 年 2 月 7 日～平成 25 年 2 月 3 日(上映会を含む) ・開館記念日(平成 24 年 12 月 1 日)には、展覧会の無料観覧を実施(フィルムセンターの上映会を除く) ・本館、工芸館では、東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引 ・本館・工芸館では、「東京マラソン 2013」イベントガイド持参者は、所蔵作品展の観覧料(個人一般)を割引	入館料、開館時間については、アンケート調査を踏まえ、文化の日、国際博物館の日における所蔵作品展の無料化、高校生以下及び 18 歳未満者の無料化、夜間開館、年始・ゴールデンウィーク等の臨時開館など、管理運営の改善に取り組んでおり、評価できる。さまざまな機会でも臨機応変にサービスが行われている点は、入館者へのソフトなサプライズとして単なる便宜サービス以上のメッセージとなっている。 また、展覧会ごとに様々なサービスを行うとともに、キャンパスメンバーズ制度を活用した、大学生へのサービスの拡充も評価できる。
--	---	---

	・本館では、年始は 1 月 2 日から開館し、図録やオリジナルグッズをプレゼント ・本館では、共催展においてペア観覧券等による観覧料割引 ・本館では、千代田区「秋まつり 2012 公式ガイドマップ」持参者は「美術にぶるっ！展」を、また、「桜まつり 2013 公式ガイドマップ」持参者は「フランス・ベーコン展」の観覧料金を割引 ・工芸館では、千代田区「桜まつり 2013 公式ガイドマップ」持参者は、所蔵作品展の観覧料金(個人一般)を割引 ・「ジャクソン・ポロック展」において、政府による美術品補償制度適用の国民への還元策として、平成 24 年 2 月から 4 月の日曜日(12 日間)及び祝日(3 日間)の 15 日間(平成 24 年度は 6 日間)について、高校生の無料観覧を実施 ・「フランス・ベーコン展」において、政府による美術品補償制度適用の国民への還元策として、平成 25 年 3 月から 4 月の土曜日、日曜日の 16 日間(平成 24 年度は 8 日間)について、高校生の無料観覧を実施 (イ)国立西洋美術館 ・クレジットカード及び電子マネー(Suica 及び PASMO)による観覧券の窓口販売 ・春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの開館時間を 30 分延長し、午後 5 時 30 分まで開館 ・「夏休み子供音楽会 2012《上野の森文化探検》」(主催:東京文化会館(公益財団法人東京都歴史文化財団)ほか)に参画し、音楽会参加者について常設展の無料観覧を実施(期間:平成 24 年 7 月 22 日のみ) ・教育普及プログラム「ファン・デー」の開催に伴い、常設展及び「手の痕跡」展の無料観覧を実施(期間:平成 24 年 11 月 10 日、11 日のみ) ・「ベルリン国立美術館展」において、政府による美術品補償制度の適用を想定し、高校生料金を同規模の企画展より安価に設定し、料金を 500 円としたほか、平成 24 年 7 月 21 日から 8 月 5 日の 14 日間について、高校生の無料観覧を実施 ・「ベルリン国立美術館展」について、ペア観覧券等による観覧料割引を実施 ・「ラファエロ」展において、政府による美術品補償制度の還元策として、平成 25 年 3 月 22 日から 3 月 31 日の 9 日間について、高校生の無料観覧を実施(高校生観覧料の無料化は平成 25 年 4 月 7 日まで、計 15 日間実施) ・上野の山文化ゾーンフェスティバル 20 周年記念「上野の山ナイトミュージアム」(主催:上野の山文化ゾーン連絡協議会)に参画し、21 時まで開館時間を延長(期間:平成 24 年 10 月 20 日のみ) (ウ)国立国際美術館 ・毎月第一土曜日に、所蔵作品展のみ観覧料の無料化(B2F) ・関西文化の日(11 月 17 日、18 日)に、所蔵作品展の観覧料の無料化(B2F)	
--	---	--

○ 入館者にとって快適な空間となるよう、利用者ニーズを踏まえてミュージアムショップ	(エ) 国立新美術館 ・クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO）による観覧券の窓口販売 ・「平成 24 年度[第 16 回]文化庁メディア芸術祭」の無料観覧 ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布 ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引 ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引 ・共催展において、ペア観覧券等による観覧料割引 ・共催展において、高校生無料観覧日の設定を推進 ・「セザンヌ―パリとプロヴァンス」において、政府による美術品補償制度の還元策として、平成 24 年 3 月 28 日から 4 月 8 日までの 12 日間（平成 24 年度は 8 日間）、及び 4 月 14 日から 30 日までの土・日・祝日（7 日間）について、高校生の無料観覧を実施 ・「リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝」において、政府による美術品補償制度の還元策として、平成 24 年 10 月から 11 月の土・日・祝日（18 日間）について、高校生の無料観覧を実施 ・「六本木アートナイト 2013」（平成 25 年 3 月 23 日～24 日）において、3 月 23 日の「アーティスト・ファイル 2013—現代の作家たち」及び「カリフォルニア・デザイン 1930-1965—モダン・リビングの起源—」展の開館時間を 22 時まで延長し、観覧料を無料化 ・5 月 1 日（火）に臨時開館を実施 ④ キャンパスメンバーズ制度の実施 平成 18 年 12 月に規則を制定し、国立美術館全体の事業として発足した、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については、平成 24 年度においてメンバー校は新規 8 校を加え 78 校、各館利用者は 76,180 名となった。また、平成 22 年度にパソコン版、平成 23 年度にモバイル版を開設したキャンパスメンバーズ入会校学生向け特設サイトにおいて、各館の展覧会情報を提供するとともに、サイトを周知するためのポスター及びチラシを加入校に配布するなど、利用促進に努めた。 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業を新たに始め、国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校（東京国立近代美術館利用校）が、フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行うための整備を行い、4 回の講義を実施したほか、大学等の学生が、フィルムセンターで映画の上映会または展覧会を観覧したことを証明する「鑑賞証明カード」の配付を開始した。 ⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実 ミュージアムショップについては、所蔵作品の図版を使用したポストカードや図柄を活用し	ミュージアムショップ、レストラン等の付帯設備は、かなり改善され・配慮されてお
--	--	---

やレストラン等の充実を図ったか。	たオリジナルグッズの開発に努め、ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなど広報宣伝を行った。また、レストランについては、企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。 東京国立近代美術館本館では、平成 23 年度のピンバッジに続き、ホルダー付き記念切手、トートバック、T シャツなどの 60 周年記念グッズを販売した。また、レストランでは、「美術にぶるっ！展」及び「フランス・ベーコン展」にちなんだ特別メニューや、皇居周辺の桜をテーマにした「桜プレート」など季節にちなんだメニューを開発し提供した。 京都国立近代美術館では、幅広い客層から満足を得られるよう、単価・内容を吟味しつつ、多様な商品を展開するよう取り組むとともに、開館 50 周年記念展に合わせ、「上野リチ」オリジナルグッズを企画、作成した。展覧会毎に内容に関連した書籍を充実させ、アートグッズも絶えず新商品を取り入れ、リピーターからも満足してもらえるように仕入れを行った。また、レストランでは、春夏と秋冬でメニューを入れ替え、京都の旬の食材を使った手作りのメニューを提供するとともに、企画展に合わせたテーマランチやテーマデザートの提供を行った。 国立西洋美術館では、販売品の充実のため、例年に引き続きオリジナルグッズの開発を行った。平成 24 年度の主な新商品として、ゴッホ「ばら」をモチーフにしたアクセサリーや最新技術の色調校正で作品の色を再現した所蔵作品図版のオリジナル卓上カレンダー、ル・コルビュジエが設計した本館建築図面を元に立体再現をしたペーパークラフトなどを販売した。また、レストランでは、各企画展に関連したメニューを開発し、提供した。 国立国際美術館では、所蔵作品の絵葉書、封筒、T シャツや、美術館のロゴ入りマグカップ、T シャツ、キーホルダーなどオリジナルグッズの充実のほか、企画展に合わせて、出展作家に関連した書籍、DVD の販売を行い、来館者のニーズに合わせた運営を行った。また、レストランでは、運営会社を変更し、メニューの種類を増やす等により充実させた。 国立新美術館では、ミュージアムショップと連携し、ショップ内のギャラリーの展示について企画協力を行った。「与えられた形象―辰野登恵子/柴田敏雄」及び「カリフォルニア・デザイン 1930-1965―モダン・リビングの起源―」展において、外部事業者の企画によるミュージアムショップを設置し、自主企画展におけるミュージアムショップの充実を図った。また、レストランでは、来館者からの意見等について、業者と協議し、一部メニューの変更を実施するとともに、共催展にゆかりのある特別メニューを企画し、提供した。さらに、「六本木アートナイト 2013」(平成 25 年 3 月 23 日～24 日)では、3 月 23 日の営業時間を 22 時まで延長し、利用者にオリジナルポストカードやオリジナルキャンバスバッグのプレゼント企画を実施するとともに、レストランを会場として使用し、アーティストと空間をともにし、語らい、食事ができる「六本木夜楽会(ろくほんもくよらくえ)」と題するアートナイトのプログラムを実施した。	り、引き続き快適な空間にするような努力を期待する。 ミュージアムショップについては、情報化社会を視野におき、ナショナル・センターとしての新しい理念に基づく能動的かつ魅力的な美術館の空間作りに取り組むことが期待される。
-------------------------	---	--

【(中項目)1-2】	2. 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示しうるナショナルコレクションの形成・継承	【評定】			
		A			
		H23	H25	H26	H27
		A			

【(小項目)1-2-1】	収蔵品の収集	【評定】	
【法人の達成すべき目標(計画)の概要】 (1)-1 国民に対して多様な鑑賞機会を提供するとともに、国内外の美術館活動の活性化に資するため、各種制度を有効に活用し、ナショナルコレクションの形成を図る。その際の各館の役割・任務に沿った収集方針は、次に掲げるとおりとし、その収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。 なお、美術作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適宜適切な購入を図る。 また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に取り組む。 (東京国立近代美術館) 近・現代の絵画、版画・水彩・素描、彫刻、写真等の作品、工芸作品、デザイン作品、映画フィルム等を収集する。 美術・工芸に関しては近代美術全般の歴史的な所蔵作品の展示が可能となるように、歴史的価値を有する作品・資料を収集する。 また、映画フィルム等については、残存するフィルムの収集に取り組むとともに積極的に復元を図る。 (京都国立近代美術館) 近代美術史における重要な美術作品など、近・現代の美術・工芸・写真・デザイン作品等を収集する。 その際、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した所蔵作品の充実を図る。 (国立西洋美術館) 中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように、松方コレクションを中心とした近代フランス美術の充実、近世ヨーロッパ絵画の充実及びヨーロッパ版画の系統的収集を行う。 (国立国際美術館) 日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために、国際的な交流が極めて盛んになった1945年以降の国内外の美術並びに同時代の先端的な美術を中心に、総合的な影響関係を踏まえつつ、体系的に収集する。 (1)-2 所蔵作品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用に努める。 (1)-3 各館の収集方針に則しつつ、緊密な情報交換と連携を図りながら、国立美術館全体のコレクションの充実を図る。		A	
		H23	H24
		A	
		実績報告書等 参照箇所	
		＜実績報告書＞	
P37～40			
2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示しうるナショナルコレクションの形成・継承			
(1)美術作品の収集			

【インプット指標】

(中期目標期間)	H19	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(百万円)	1,034	1,134	2,093	1,694	1,668	2,985
従事人員数(人)	52	51	51	49	49	47

1) 決算額は固定資産の取得、処分、減価償却費及び減損損失累計額の明細における美術工芸品の当期増加額から寄贈による資産の取得額を減じた額を計上している。

2) 従事人員数は、国立新美術館を除くすべての研究職員数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。

評価基準

○ 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図ったか。

なお、美術作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適宜適切な購入を図ったか。

また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に取り組んだか。

○ 所蔵作品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用に努めたか。

○ 各館の収集方針に則しつつ、緊密な情報交換と連携を図りながら、国立美術館全体のコレクションの充実を図ったか。

実績

美術作品の収集

館 名		購入点数	購入金額 (千円)	寄贈点数	年度末 所蔵作品数	年度末 寄託品数
東京国立近代美術館	本館	123	269,919	31	12,344※ ¹	235
	工芸館	2	63,000	54	3,288※ ²	108
京都国立近代美術館		67	829,964	327	11,401	819
国立西洋美術館		17	953,443	811	5,521	122
国立国際美術館		102	742,398	228	7,016	132
計		311	2,858,724	1,451	39,570	1,416

※1 東京国立近代美術館本館では、『東京国立近代美術館 60 年史』の編纂を契機として、所蔵作品の計数方法等の見直しを行った。

※2 東京国立近代美術館本館では、『東京国立近代美術館 60 年史』の編纂を契機として、所蔵作品の計数方法等の見直しを行った。

館 名	購入 本数	購入金額 (千円)	寄贈本数	年度末 所蔵本数	年度末 寄託品本数
東京国立近代美術館(フィルムセンター)	247	114,092	1,523	67,287	8,018

【美術作品の収集 過去の実績】

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
購入点数	318	174	311	400	286	674	311
購入金額(千	762,373	817,359	832,117	836,660	1,375,962	1,382,245	2,037,301

分析・評価

収蔵品の収集については、購入、寄贈ともに全体として、体系的・通史的にバランスのとれたコレクションの充実に努めており、評価できる。

関西の歴史的な個人コレクションの購入と受贈や、価値ある作品情報の収集によって、海外流失を防ぎ、収蔵できたことは評価したい。

今後も国立美術館5館の全体として、ナショナルコレクションとして体系的であるべきであり、さらに国際的に誇りうる水準とするような努力が求められる。

円)							
寄贈点数	804	853	427	229	386	1,213	1,451
年度末 所蔵作品数	30,962	31,989	32,729	33,354	34,026	35,913	39,570
年度末 寄託品数	2,517	2,631	1,505	1,529	1,338	1,315	1,416

【映画フィルムの収集 過去の実績】

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
購入本数	406	285	375	1,194	413	291	247
購入金額(千 円)	265,056	209,323	289,411	1,259,910	348,086	274,662	114,092
寄贈本数	1,611	2,834	7,671	1,648	852	1,479	1,523
年度末 所蔵本数	48,475	51,594	59,640	62,482	63,747	65,517	67,287
年度末 寄託品本数	7,048	7,048	8,018	8,018	8,018	8,018	8,018

各館における作品の収集は、各館の収集方針及び各館の研究員による調査・研究活動を通じ、収集すべき美術作品を検討し、学芸課長会議において、各館における収集計画について協議した上で、「美術作品購入又は寄贈受入れに関する規程」で定められた外部の有識者による美術作品購入選考委員会の開催を経て、実施した。

また、学芸課長会議において、作品収集についての情報交換を行った。

平成 24 年度に予算措置された美術作品購入費の用途について、各館の調査研究及び収集方針を踏まえ、法人全体で協議し、海外への流出可能性など緊急度の高さ、作品の品質と希少性等の観点から検討し、通常の予算では購入困難な作品を購入した。

各館の収集(購入・寄贈)の方針と実績

(ア)東京国立近代美術館

(本館)

明治から今日に至る美術作品を、日本を中心に、重要な影響を与えた海外の作品も交えて収集することを方針し、絵画、版画、水彩・素描、彫刻・立体造形、写真、映像等の分野を対象とする。

平成 24 年度は、近代日本美術の体系的コレクションの構築を引き続き図りつつ、近代日

	本美術に影響を与えた海外作家作品の収集も積極的に行った。特に次の点に留意した。 ①1900－1940 年代の日本画作品の収集 ②1970 年代以降の日本人作家の作品の収集 ③日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品の収集 購入作品については、平成 22 年度より継続して収集を行ってきた国内個人のコレクションより、スペインの世界的画家、ジョアン・ミロ初期の重要作《絵画詩(おお！あの人やっちゃったのね)》を特別購入予算により購入した。作品の重要度はもとより、国内コレクションの海外流出を防ぐ意味でも、収蔵の意義は大きい。また、日本の前衛運動における最重要画家のひとり、瑛九の 83 点におよぶ貴重な作品・資料を購入・受贈した。加えて、当館のコミッションワーク(注文制作)として、館を舞台に撮影された若手作家、田中功起の映像作品 1 点を購入した。 寄贈作品については、注目すべき中堅写真家である松江泰治の集大成となる作品群、1 点(全 343 点組)を国内個人より受贈することができた。 (工芸館) 日本工芸の近代化を示す作品の補充と、戦後から現代に至る伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集、そして近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集に留意した。 購入作品については、高額作品を 2 点収集することができた。加守田章二《曲線彫文壺》は、加守田作品を代表する〈曲線彫文〉シリーズの壺であり、本焼で焼き締められた器胎に縄文土器を思わせる波状の曲線が彫りこまれている。長年当館へ寄託され、1987 年当館企画展「加守田章二」等でもっとも重要な作品として紹介されてきた作品である。また、二十代堆朱楊成《彫漆六華式平卓》は、1916 年第 4 回農展に出品されたもので、1929 年発行の作品集でも最も重要な作品として掲載された作家の代表的作品である。 寄贈作品については、伝統工芸作品が主であったが、槻尾宗一のクラフト作品や、アメリカのジム・レーディの現代陶芸作品の寄贈を受け入れた。また、「原弘と東京国立近代美術館」で取り上げた、東京国立近代美術館の展覧会ポスター等のデザインを長年手掛けた原弘のグラフィック作品 165 点を、保存分として保管してあった所蔵資料から分類替えを行い、21 点を寄贈分として収蔵した。 (フィルムセンター) 購入については、上映企画に合わせ、『今年の恋(全八話)』(1967 年)ほか、木下恵介監督に関連するテレビ映画作品全 12 作品 31 本、春原政久『女人の館』(1954 年)ほか、日活作品全 9 作品 10 本、『J・MOVIE・WARS 月はどっちに出ている』(1993 年)ほか、崔洋一監督作品全 10 作品のプリント、及び平成 25 年度の上映企画に合わせ、毛利正樹『宇治みさ子の緋ぢりめん女大名』(1958 年)、和田嘉訓『自動車泥棒』(1964 年)ほか、全 7 作品 10 本等のフィルムを購入した。	
--	---	--

	寄贈作品については、新規の受入先からの寄贈として、日本大学藝術学部より、畑中寥坡『寒椿』(1921 年)の可燃性染色プリントや日本大学藝術科による文化・記録映画『沈み行く小河内村』(1938 年)の可燃性マスター・ポジ等 29 本、国鉄労働組合より、徳永瑞夫『三池—たたかう仲間の心はひとつ—』(1950 年)等プリント 101 本、株式会社フィルム・クレセントより、熊井啓『ひかりごけ』(1992 年)のオリジナル・ネガ等、原版類及びプリント 48 本を受贈した。一方、公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団からは、同財団が木村正美『—伝統工芸の名匠— うるしを現代にいかす 曲輪造・赤地友哉』(1980 年)以来製作してきた工芸・伝統芸能・民俗芸能に関する記録映画 41 作品の全フィルム原版的寄贈を受け入れた。 また、石井岳龍(聰互)、金井勝、藤原智子、松川八洲雄など、長年個人やインディペンデントで活躍してきた映画監督による貴重な作品の原版類及びプリント等をはじめとして平成 24 年度においても寄贈受入れを引き続き活発に行った。 映画関連資料については、川喜多記念映画文化財団より静活株式会社旧蔵の日本映画ポスター1,114 点、また、「日本の映画ポスター芸術」の出品作家である横尾忠則氏から同氏デザインの映画ポスター17 点等の寄贈を受けた。 (イ)京都国立近代美術館 国内外の「工芸」作品を中心に、日本画、油彩画、版画、写真、現代美術及び海外の近代美術作品などの代表的作品、並びに美術史上貴重な価値を有する作品・資料の収集を進めるという長期的な収集方針の下、平成 24 年度は、一括収蔵することで近代美術史上重要な意味を有する「芝川照吉コレクション」を収集するとともに、引き続き日本及び海外の近代美術作品についても収集した。 購入作品については、「芝川照吉コレクション」に含まれる青木繁の名作《女の顔》、我が国近代美術史上の代表作である村上華岳、速水御舟などの日本画、藤島武二の大作や、工芸においても富本憲吉や加守田章二の優品、継続購入となるハンナ・ヘッヒについては特別購入予算を活用することにより購入することができた。また、萬鐵五郎の油彩画を初めて収蔵することができた。 寄贈作品については、「芝川照吉コレクション」に含まれる青木繁の《女の顔》以外の作品が寄贈され、その中には岸田劉生や藤井達吉、富本憲吉などの作品 170 余点が含まれた。また、当館で個展を開催した井田照一の版画作品及び北村武資の染織作品についても、多数の寄贈があった。 (ウ)国立西洋美術館 平成 24 年度についても、中世末期から 20 世紀初頭に至る西洋美術の流れを概観するコレクションの充実及びヨーロッパ版画の系統的収集を行うことを意図し、次の点を方針として収集に努めた。 ①15 世紀～20 世紀初頭のヨーロッパ絵画の収集、②ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心とするヨーロッパ版画コレクションの充実、③旧松方コレクション作品の情報収集の継	
--	---	--

	続, ④西洋工芸美術品(装飾作品・装身具)の収集 購入作品については, 特別購入予算によりポール・セザンヌの油彩画《ポントワーズの橋と堰》を購入した。印象派の画風からセザンヌ独自の様式への移行を示す, 非常に質の高い作品であり, 常設展示の中で重要な位置を占めることとなった。 寄贈作品については, 個人コレクターより, 古代から現代までの宝飾品コレクション805点の一括寄贈を受けた。これまでの工芸コレクションはタピスリーが中心で, 宝飾品・装身具の収蔵は今回が最初となる。時代, 地域, 技法・材質が極めて多岐にわたり, 今後の調査研究や展示において多様な視点から活用できる可能性のある貴重なコレクションとなった。 (エ)国立国際美術館 日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため, 主として, ①1945 年以降の日本の現代美術作品の系統的収集, ②国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集を行った。 購入作品については, 第二次大戦後の抽象芸術を代表する作家でありアンフォルメル之源流となった作家ジャン・フォートリエの作品や, 現代ドイツ写真を代表する作家であるアンドレアス・グルスキーのほか, 日本の現代美術を代表する作家である北山善夫の作品を購入することができた。 寄贈作品については, 反芸術世代を代表する作家の一人である工藤哲巳の初期作品, 版画家渡辺千尋の作品並びに内科画廊関連のコレクション, さらに, プレイの関連資料を多数寄贈いただき, 充実させることができた。	
--	---	--

【(小項目)1-2-2】		収蔵品の保管・管理					【評価】			
【法人の達成すべき目標(計画)の概要】 (2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世に伝えらるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応に積極的に取り組む。その際、各館における対策はもとより、抜本的な改善に向けた今後の方策として、各館で横断的に活用が可能な形態や方法についても、既存の施設との連携を図りながら、地元自治体や関係機関の協力を得て検討を進める。 (2)-2 環境整備及び管理技術の向上に取り組むとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。							B			
							H23	H25	H26	H27
							A			
							実績報告書等 参照箇所 ＜実績報告書＞ P40～43 (2)収蔵庫保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等 ①収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応 ②保存環境の整備等と防災対策の推進・充実			
【インプット指標】										
(中期目標期間)		H19	H20	H21	H22	H23	H24			
決算額(百万円)		339	323	341	411	386	364			
従事人員数(人)		45	43	43	40	40	39			
1)決算額は損益計算書 収集保管事業費を計上している。 2)従事人員数は、収集保管業務に携わるすべての研究職員数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。										
評価基準			実績					分析・評価		
○ 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世に伝えらるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応に積極的に取り組んだか。その際、各館における対策はもとより、抜本的な改善に向けた今後の方策として、各館で横断的に活用が可能な形態や方法についても、既存の施設との連携を図りながら、地元自治体や関係機関の協力を得て検討を進めたか。			① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応 ア 東京国立近代美術館 本館では、現在、新・旧二つの収蔵庫はともに収蔵率約125%となっている。年間約250点の作品貸与と年間約800点の所蔵作品展展示により作品が庫外に出ていることで、最低限のやりくりが成り立っている。引き続き収納の効率化(マット装でのマップケースへの収蔵等)、周密化による環境悪化に由来する虫害を防止する虫害検査、定期清掃などの対策を行っている。また、フィルムセンター収蔵庫、ヤマト運輸倉庫、三菱倉庫の3つの外部倉庫を借り、不足を補っている。今後も引き続き収納の効率化、虫害防止等の対策を行う。将来的には外部に収蔵庫を設け、民間倉庫借り上げの費用的、業務的負担を軽減することが望ましいと思われる。 工芸館では、収蔵庫 4 室及び一時保管庫として活用している荷解き室の狭隘化は急激に進行している状態である。床面の大方はすでに埋まっているが、棚間の通路にも作品を 2 段重ねにするほどの困難な状態となりつつある。また、企画展や所					収蔵品の保管・管理については、適切な温湿度管理・定期点検とともに、随時、施設の改修工事等を実施することにより、安全な保管・管理が実施されている。 収蔵庫等の施設は、年々増加する所蔵品を工夫しながら管理を行っているが、ナショナルセンターとしての機能を損なうことがないよう、早急に新たな保管施設の確保と収蔵品の保管環境の改善に取り組む必要がある。		

蔵品巡回展、所蔵品展、本館 2 階で開催したデザイン展等に関する出品作品の収納が重なった際にスペースの算段に厳しいものがあった。グラフィック・デザイン作品はフィルムセンター内収蔵庫で保管しているが、平成 24 年度に所蔵資料から寄贈及び分類替えにより作品として収蔵した原弘のグラフィック作品 186 点も収納した。安全な保管を確保するために、外部倉庫の活用を検討する段階に達してきたように思われる。

フィルムセンターでは、平成 24 年度までに、「ビネガー・シンドローム」を極度に発症したフィルムと、保存庫を寄託映画フィルムと共用していた所蔵映画フィルムについて、映画保存棟Ⅱへの移動を完了するとともに、ならし室やエレベーター・ホール等の導線部分の温湿度設定について、フィルム素材、保存科学、建築の専門家による会議での議論を受け、次年度以降の本格的な移動・格納計画を準備することが可能になった。

また、平成 24 年度はこれに加え、以下のような対応を行った。

- ・京橋に設置していた KEM16 mm検査台に、画像取り込み装置を付設し、相模原分館に移設することによって、分館での十全な検査作業に資することが可能になった。
- ・中古のスティーンベック 35 mm検査台 1 台を取得することにより、検査作業のバックアップ態勢を整えることができた。
- ・収集されるフィルムの多様化に対応し、フィルム調査カードのフォーマット、項目、選択肢等の改訂を行った。
- ・プリント運用の増加に対応し、フィルム検査及び補修の結果をレベルで評価することにより、運用上の便宜を向上させた。
- ・次年度以降、所蔵可燃性フィルムの網羅的な調査を行うための準備として、検査及び補修の作業工程とデータ採取について、調査研究を行った。

映画関連資料について、現在、ノンフィルム資料のうち紙素材の資料はフィルムセンター（京橋）の 4 階図書室と地下 3 階収蔵庫にて保管されているが、収蔵能力が限界に達しつつある。相模原分館の新収蔵庫への部分的な移転計画を検討する必要がある。

今後は、映画保存棟Ⅱの本格的な運用を目標に、低温低湿の維持を実行しつつ、節電等省エネルギー化を図るために契約電力の見直しを行い、ならし室やエレベーター・ホール等の導線部分の温湿度設定の環境条件について、専門家による委員会の報告をまとめ、実際に実行する必要がある。また、映画保存棟Ⅰと映画保存棟Ⅱの機能分担、ⅠからⅡへの移動・格納計画を進めることが必要である。さらに、画保存棟Ⅰの保存庫棟の外気侵入を妨げる方法についての検討を行い、根本的な改修を行う必要がある。

○ 環境整備及び管理技術の向上に取り組むとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図ったか。	イ 京都国立近代美術館 収蔵庫内の火災報知設備及び照明設備を改修するための設計業務を実施した。これを受け、今後、より安全で適切な保存環境に改修するための工事に着手する。なお、狭隘状態は慢性化しているため、新たな収蔵場所の確保を検討する。 ウ 国立西洋美術館 不具合により使用ができなくなっていた新館第一収蔵庫の絵画ラック 3 面について、修繕を実施した。今後は、引き続き、収蔵庫内の日常的な整理整頓と、適正な温湿度管理、地震対策の徹底を実施していくことが必要である。また、収蔵庫内の適切な保存環境の維持のために、新館・企画館の収蔵庫について、耐用年数を考慮した空調機の更新の検討が望まれる。 平成 24 年度、橋本貫志氏旧蔵の宝飾品コレクション 805 点の寄贈を受けたが、初めてのまとまった美術工芸品の取得であることから、素材やサイズ、量、セキュリティを十分考慮した収納、保管の方法を構築する必要がある。 エ 国立国際美術館 既に収納率が実質 100%以上となっているが、積み重ねられる作品をまとめて収納したり、ラックの隙間を可能な限り小さくしたりして、適切な保存環境を維持するよう努めた。今後も、引き続き新たな収納ケースの整備、作品梱包の工夫、汚損した額縁を廃棄するなどして、適切な保存環境の整備について検討する。 オ その他 収蔵庫狭隘化への対策を検討するため、国立美術館、国立文化財機構及び日本芸術文化振興会の 3 法人で、収蔵施設に関するワーキンググループを関東地区及び関西地区でそれぞれ立ち上げた。 ② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実 ア 東京国立近代美術館 （本館・工芸館） 本館講堂において、平成 24 年 9 月 1 日に、「夏の家」に関する講演会の後、聴講のお客様（約 140 名）を交え、茨城県沖にて大地震発生を想定した避難誘導訓練を実施した。また、平成 24 年 9 月 24 日には、放送訓練、避難訓練、初期消火（模擬）、AED の操作方法を含む総合訓練を実施した。 工芸館において、平成 25 年 3 月 27 日に、人員の少ない日直出勤日における放送訓練、避難訓練、初期消火（模擬）を含む総合訓練を実施した。 （フィルムセンター） フィルムセンターでは、以下の点検及び訓練を実施した。 ・消防用設備、自家発電設備など定期点検を実施	適切な水準にあり、今後ともに、防災対策に取り組んで行くことを期待する。
---	---	--

	・フィルムセンター(京橋)での消防訓練を実施(平成 25 年 3 月 6 日) ・フィルムセンター(京橋)での消防訓練(部分訓練:地下 3 階収蔵庫)を実施(平成 25 年 3 月 29 日) ・フィルムセンター相模原分館での消防訓練を実施(平成 24 年 11 月 20 日) イ 京都国立近代美術館 平成 24 年 11 月 26 日に消防署指導のもとで避難誘導訓練・消火訓練を実施した。 ウ 国立西洋美術館 平成 23 年度に引き続き、常設展示室内での地震による衝撃の被害を軽減するために、すべての作品に衝撃吸収ゴムの取り付けと額装の改善を実施した。 エ 国立国際美術館 当美術館は、阪神淡路大震災後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保、二次災害の防止及び機能保全が図られるよう建築された。また、当館は完全地下型の美術館のため、防水・洪水に対しても地下壁は二重構造及び外防水層を施し、防災上、必要な非常口等開口部には防潮、防水扉を採用している。 地下 2 階と地下 3 階にある収蔵庫は、ダイヤル式によりロックされており、防虫のために入口には網戸を設置している。内装は湿気の吸着に優れた天然木材を使用し、下地に不透湿シートをはり、外壁は 2 重壁構造により湿気を防ぎ、湿度・温度調整も 24 時間体勢で実施している。火災発生時には、不活性ガス(窒素)が充填されるシステムにより、作品を傷めることなく消火できる。 また、災害対策を維持するための定期点検を実施した。	
--	---	--

【(小項目)1－2－3】		収蔵品の修理				【評価】							
【法人の達成すべき目標(計画)の概要】 (3)修理・修復に関しては、各館の連携を図りつつ、外部の保存科学の専門家等とも連携して、所蔵作品の保存状況を確実に把握し、修理・修復の計画的実施に取り組む。						A							
						H23		H25		H26		H25	
						A							
						実績報告書等 参照箇所							
						＜実績報告書＞ P43～44 (3)所蔵作品の修理・修復							
【インプット指標】													
(中期目標期間)		H19		H20		H21		H22		H23		H24	
決算額(百万円)		339		323		341		411		386		364	
従事人員数(人)		52		51		51		49		49		47	
1)決算額は損益計算書 収集保管事業費を計上している。(本項目は収集保管事業費の一部であり、個別に計上できないため、収集保管事業費全額を計上している。)													
2)従事人員数は、国立新美術館を除くすべての研究職員数を計上している。その際、役員及び事務職員は勘案していない。													
評価基準				実績						分析・評価			
○ 各館の連携を図りつつ、外部の保存科学の専門家等とも連携して、所蔵作品の保存状況を確実に把握し、修理・修復の計画的実施に取り組んだか。				所蔵作品の修理・修復						収蔵品の修理については計画的に取り組んでおり、適切に実施されていると評価できる。 また、フィルムセンターにおける一連の映画フィルムのデジタル復元や不燃化作業は、映画文化の保全・継承に対する意識を喚起した点でも評価できる。 国立美術館として専門修復家の業務を保持・確立しえない体制は、諸外国のナショナル・ミュージアムに比して拙劣であることから、今後は、計画的に研究員のみならず、専門技術者などの人材を確保していくことが必要である。			
				① 東京国立近代美術館 絵画 7 件, 工芸 6 件, 映画フィルムデジタル復元 20 本, ノイズリダクション等 34 本, 不燃化作業 65 本 (本館) 昭和 38 年より長く寄託され、傷みが激しいため展示活用されずにきた日本画家、平福百穂の大型屏風《丹鶴青瀾》の寄贈を受け、この修復に着手した。破損、汚れ、水濡れ、焼け焦げなど重度の傷みが見られたため、大規模な解体修理を、半双ずつ、平成 25 年度までの 2 年をかけて行う計画とし、24 年度分の半双を終了した。なお、修復方針を決定するに当たって、東京藝術大学、練馬区立美術館、横浜美術館の日本画専門家の協力を得た。 (工芸館) 平成 23 年度から修復を継続した漆工の松田権六作品 1 点は、相当の期間と技術を要したが、一応の現状保存修復がなった。平成 23 年度に寄贈された									

	野口光彦の御所人形作品 2 点の修復に着手したが、胡粉の大きなヒビがあり、また、カビや汚れが想定以上の困難さが見出され、そのために修復期間が平成 25 年度にも及ぶ結果となった。染織では、引き続き紬織の志村ふくみ作品の現状保存修復を行った。 (フィルムセンター) ・日本アニメーション映画のカラー作品における初のデジタル復元として、大藤信郎監督による戦後の代表作『くじら』(1953 年)と『幽霊船』(1956 年)について、現存素材及び関連資料等に関する綿密な調査研究をもとに、褪色補正を焦点にしたデジタル復元を行うとともに、平成 23 年にアメリカ・アカデミー科学技術賞に輝いたカラー三色分解保存用白黒ネガ・フィルムにレコーディングすることにより、映画フィルムの復元、長期保存における現時点での最善のワークフローを実践した。また、三色分解した 3 本のネガ・フィルムを光学合成することによりプリントを仕上げることによって、優れた色再現性、高解像度、シャープネスを得ることができた。なお、デジタル復元を行うに当たっては、元素材となったフィルムを所有する公益社団法人映像文化製作者連盟から協力を得るとともに、修復及び複製作業を委託した IMAGICA 及び IMAGICA ウェストとの綿密な共同作業を行った。 ・次年度以降、本格的な作業に入る小津安二郎監督のカラー作品 4 作品のデジタル復元について、その第 1 作目となる『秋刀魚の味』(1962 年)の褪色補正に必要な調査研究を行った。その際、デジタル復元の元素材となったフィルムを所有する松竹株式会社との連携協力を行った。 ・日本大学芸術学部製作『無形文化財 神代舞』(1954 年)の可燃性フィルムからの復元に際し、タイトルと背景など複数枚のフィルムを使用して擬似的に合成する、通称「ヒゲ処理」に対して、該当フィルムよりマスター・ポジを作成し、これらを光学合成することにより、最適な復元を行った。 ・映画関連資料については、記録映画作家中村麟子の旧蔵資料をはじめ、劣化・損傷の恐れがあるシナリオ等冊子に対して中性紙の保存ケースを制作して長期保存を図った。 ② 京都国立近代美術館 絵画 9 件 平成 24 年度も企画競争を導入して、日本画 3 点、洋画 5 点の修理を行い、素描 1 点についてもシミ抜きなどの処置を施した。特に洋画作品については、戦前京都で活躍した貴重なシュルレアリスム作家(伊藤久三郎)の未公開作であり、これまで傷みが激しかったこともあり、作者の全作品集にも未掲載のもので、今後の活用が期待される。企画競争の導入は、保存・修復の担当者がいな	
--	--	--

	い同館にあっては、研究員がその状態、修理方法を学ぶ絶好の機会でもあり、外部の修理業者から提出された修理にかかる書面を検討し、その知識を得るためにも貴重な場となっている、さらに、実際の修理に際しては、決定された外部の業者と常に修理の状況を確認しつつ、意見交換が行えることもあり、その連携を大切にしていきたい。 ③ 国立西洋美術館 絵画 40 件、水彩 7 件、素描 3 件、版画 15 件 平成 24 年度は国立美術館巡回展の準備として、収蔵作品のうち、額装状態の劣悪な作品に関して、改善作業を実施した。また、新収蔵作品の額装改善を実施し、速やかに展示に供する準備をした。さらに、貸出に際してエル・グレコ作品及びルーベンス作品の額装改善とともに、状態に関する詳細な調査を実施した。版画・素描の新収作品について収蔵に適するように処置するとともに、状態の悪い収蔵作品について改善作業を施した。 ④ 国立国際美術館 絵画 1 件、彫刻 2 件 平成 24 年度は、外部の彫刻に関する修復家と連携し、当館所蔵作品のコンディションチェックを行い、修復の緊急性が高いと判断した福嶋敬恭《Blue Dots》(1966/89 年)について、表面の清掃、角欠け部分の補填と補彩を行ったほか、ジャン・ティンゲリー《バッタ》(1963 年)について、ワイヤーによるブラッシング、層状の錆の除去、マシンオイルの塗布、プラスチッククリーナーによる清掃を行った。絵画に関しては、ロイ・リキテンスタイン《日本風の橋のある睡蓮》(1992 年)について、作品と一体化している白い額の汚れが目立ってきたため、クリーニングを行った。	
--	---	--